

金沢産農産物ブランド戦略 2030

令和8年2月
金 沢 市

はじめに

金沢には、豊かな自然環境と長い歴史の中で育まれてきた気候、風土、文化に支えられた多様な農産物があります。先人から受け継がれてきた栽培技術に加え、生産者のたゆまぬ努力と工夫により、金沢の農産物は品質の向上と付加価値の創出が図られ、市民に親しまれるとともに、本市の食文化を支えてきました。

これらの個性豊かな農産物の魅力を市内外へ発信し、生産と消費の好循環を生み出すことで次世代へと継承していくため、本市では、生産者、流通・販売事業者、実需者及び行政が連携し、金沢産農産物のブランド化に取り組んできました。

現在では、金沢の風土が育み、今日まで受け継がれてきた伝統野菜を「加賀野菜」として認定するとともに、高い競争力を有する品目を「金沢そだち」として認証し、その魅力発信と生産体制の充実に向け、さまざまな取組を進めています。

一方、近年では、消費者の価値観や購買行動が大きく変化し、安全・安心への関心の高まりや、産地や生産者の背景を重視する傾向、さらには環境への配慮や持続可能性を意識した選択が広がっています。また、農業生産資材の価格の高騰や担い手不足の進行など、農産物を取り巻く環境は一層厳しさを増しており、地域間競争も激化しています。

このような状況の中、北陸新幹線の敦賀延伸により、本市は広域交流の拠点としての役割を一層高めているほか、令和7年12月には加賀料理が国の無形文化財に登録されるなど、「金沢の食」への関心は国内外でさらに高まりを見せています。こうした市内外からの需要の高まりを活かしつつ、市民の日常の食生活においても金沢産農産物が選ばれる環境を整え、地産地消を着実に進めていくことが重要です。広域交流による消費の拡大と、地域内での安定的な消費の両立を図ることが、金沢産農産物の持続的な発展につながるものと考えています。

そこで本市では、これまでの取組を検証するとともに、変化する社会情勢や消費者ニーズを踏まえ、今後の方向性を明確にするために、「金沢産農産物ブランド戦略2030」を策定しました。本戦略では、金沢ブランド農産物のブランド価値向上と競争力強化を目的として、消費拡大と生産者所得の向上を図る取組を、「生産」「流通」「消費」の各段階で整理し、その実現に向けて、魅力発信と、それを支える生産体制の確立を目指しています。

本戦略の推進にあたっては、生産者や農業関係団体、流通・販売事業者、教育関係者など、さまざまな主体との連携が不可欠です。今後とも、市民の皆さまをはじめ、多くの関係者のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本戦略の策定にあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました策定委員会の皆様をはじめとした関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

令和8年2月

金沢市長 村山 卓

目 次

第1章 金沢産農産物ブランド戦略 2030 策定の概要	
1. 金沢ブランド農産物の概要	1
2. 戦略策定の趣旨	1
3. 戦略の位置づけ	1
4. KPI（重要業績評価指標）	1
5. 戦略期間	1
6. 戦略策定の背景	2
第2章 金沢産農産物のブランド力向上の推進に向けた施策の体系	
1. 課題の整理	6
2. 施策体系	8
第3章 金沢産農産物のブランド力向上の推進に向けた施策内容	
1. 生産における施策	10
2. 流通における施策	15
3. 消費における施策	21
第4章 推進体制	
1. 各関係者の役割	26
2. 戦略の進捗管理	27
資料編	
資料1. 金沢ブランド農産物の現状	30
資料2. 各種団体・関係者の意向調査	51
資料3. 次期金沢産農産物ブランド戦略策定委員会	58
資料4. 次期金沢産農産物ブランド戦略策定委員会委員名簿	58
資料5. 用語説明	59
資料6. 施策の体系図	60

第1章 金沢産農産物ブランド戦略 2030 策定の概要

1. 金沢ブランド農産物の概要

金沢市には、藩政期から季節感に富んだ伝統野菜（特産野菜）が存在し、加賀料理をはじめとする豊かな食文化が継承されてきましたが、戦後、大量生産可能な一代交配種（F1種）の台頭等により、伝統野菜の存続に対する危機感が高まりました。

これを受け、平成4年に金沢市地場農産物生産安定懇話会から伝統野菜の生産、消費拡大等に対する提言がなされ、本市では、平成9年に金沢市農産物ブランド協会を発足し、加賀野菜の認定制度、金沢そだちの認証制度等を創設しました。

加賀野菜は、「昭和20年以前から栽培され、現在も主として金沢で栽培されている野菜」の定義のもと、現在では15品目が認定されています。

金沢そだちは、「金沢の風土を活かして生産された優れた農産物を認証することにより、消費者への周知と信頼を高め、金沢産農産物のブランド力の向上につなげ、生産の振興と消費の拡大を図る」ことを目的に、平成22年から5品目が認証されています。

2. 戦略策定の趣旨

本市では、「金沢の農業と森づくりプラン 2025（平成28年3月）」と「金沢産農産物ブランド新戦略（平成27年4月）」に基づき、加賀野菜や金沢そだち等の金沢ブランド農産物の生産・販売・消費の拡大に取り組んできました。

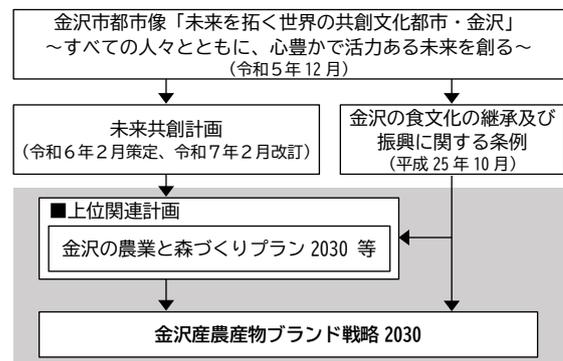
また、本市の最上位計画である「未来共創計画」においても、「加賀野菜等の消費拡大や販路開拓の取組強化」、「希少品目の存続と消費拡大の推進」が掲載されています。

しかし近年、社会情勢の変化は大きく、人口減少・少子高齢化、夏季の高温化、農業生産資材価格の高騰など、金沢産農産物を取り巻く環境は厳しさを増している一方、ライフスタイルの変化による中食・外食の増加や食の簡便化、食の安全・安心など、消費者ニーズは多様化・高度化しています。

このような背景を踏まえ、金沢ブランド農産物の一層のブランド力向上を推進するため、施策の方向や目標、具体的な取組を明確にした新たな戦略を策定します。

3. 戦略の位置づけ

本戦略は、“「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」～すべての人々と共に、心豊かで活力ある未来を創る～”と「未来共創計画」の趣旨を反映し、上位計画である「金沢の農業と森づくりプラン 2030」の具体化を図り、策定します。



4. KPI（重要業績評価指標）

3つの方向性に掲げる施策ごとに、取組の進捗や成果を測るためのKPIを設定し、統計や毎年度実施する「市民アンケート調査」で進捗状況の把握、効果の検証を行います。

5. 戦略期間

本戦略期間は、上位計画である「金沢の農業と森づくりプラン 2030」の計画期間にあわせ、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

なお、KPIの進捗や社会情勢の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

6. 戦略策定の背景

■これまでの経緯

平成元年度：金沢市新農業構想

- 金沢市地場農産物生産安定懇話会（H2～4年）
 - ①新しい特産物の開発と伝統野菜の見直し
 - ②多様な地場農産物の流通システムづくり
 - ③地場農産物の消費拡大と食文化運動の推進
 - ④推進体制の整備4つの柱を提言
- 加賀野菜保存懇話会（H3年）
 - ・民間事業者が主宰する懇話会で、「加賀野菜」の名称が誕生

平成6年度：金沢市新農政プラン

- 金沢市農産物販売促進検討委員会（H7～8年）
- 金沢市農産物ブランド協会の発足（H9年）
 - ・「加賀野菜認定制度」の構築（H9年：10品目、H10年：2品目、H14年：2品目、H15年：1品目）



平成12年度：金沢市農政プラン2010

- ・加賀野菜イメージキャラクター「ベジタン」決定（H13）



平成18年度：金沢の農業と森づくりプラン（金沢市農政プラン2010見直し）

- 金沢ブランド農産物加工・流通推進会議（H19年）
 - ・「金沢ブランド農産物加工戦略及び流通戦略」策定
 - ・加賀野菜の地域団体商標を取得
- 加賀野菜研究会（H20年）
 - ⇒「加賀野菜販売店登録制度」・「加賀野菜料理提供店登録制度」の構築（H21年）
- 加賀野菜加工品認証制度検討会（H20年）
 - ⇒「加賀野菜加工品認証制度」の構築（H21年）
- 「金沢そだち認証制度」の構築（H22年：3品目 すいか、なし、だいこん）



平成27年度：金沢産農産物ブランド新戦略 金沢の農業と森づくりプラン2025

- 金沢そだちの追加認証
(H27年：3品目きゅうり、トマト、小玉すいか（すいかに含む）)
- 金沢産農産物ブランド新戦略の再構築（R1年）
 - ・加賀野菜希少品目を重点的に支援する品目に位置づけ
 - ・加賀野菜料理提供店登録制度の廃止
 - ・加賀野菜加工品認証制度を廃止し、加賀野菜等商品化助成金制度を開始（R2年）
- 加賀野菜ブランドマークのデザインの刷新（R2年）



■前戦略での主な取組

【生産振興】

- 加賀野菜 15 品目の栽培マニュアル作成
- 種苗の収集・保存、優良系統の選抜、供給
- 金沢農業大学校における取組
 - ・各種研修の新設・拡充、カリキュラムの見直し
 - ・修了生への営農指導や農地借上、土地基盤整備、設備等の導入支援
- 国・県・市の補助・融資制度による機械・施設等の導入支援
- 地域の中心経営体への農地集積を促進、また地域計画を策定
- 新たな作型調査のための栽培実証圃の設置 等

【販売促進】

- 集出荷に係る機械や施設整備を支援
- 首都圏・関西圏のホテルや市内ホテル、飲食店等での加賀野菜フェアの開催
- 市内飲食店等と連携した加賀野菜希少品目メニューのフェアを開催
- 6次産業化アドバイザーの派遣
- 6次産業化に向けた製品開発・施設整備の支援
- 既存販売促進方法の改善、検討
 - ・加賀野菜品目別 PR 動画の制作
 - ・イベント出展用設営資材、販促資材の内容更新、制作
 - ・金沢市農産物ブランド協会 HP のリニューアル 等

【消費拡大】

- 篤農家聞きがき集、加賀野菜のあゆみ伝承の制作
- 市内、首都圏での加賀野菜の料理教室の開催
- 金沢おやこ農業塾や学校体験農園の実施
- 小学校での食育推進（加賀野菜の副読本の配布、生産者交流会の開催）
- 学校給食での加賀野菜・金沢そだちの使用
- 飲食店向け加賀野菜料理講習会の開催
- 市内飲食店と連携したバリアフリー等メニューの開発
- リーフレット、ホームページの外国語対応
- 金沢ブランド農産物を活用した各種イベントへの開催支援

■金沢市における施策等の展開（上位関連計画等）

1) 金沢市都市像「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」（令和5年12月）

- ・市政を取り巻く環境の変化を踏まえ、20年先、30年先の将来をも見据えつつ、令和16年を目標年次とするまちづくりの指針である、“「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」～すべての人々と共に、心豊かで活力ある未来を創る～”を都市像として掲げています。
- ・また、行動計画である「未来共創計画」（令和6年2月策定、令和7年2月改訂）では、「加賀野菜や金沢そだちの消費拡大」をめざして「加賀野菜等の消費拡大や販路開拓の取組強化」「希少品目の存続と消費拡大の推進」を図ることとしています。

2) 金沢の農業と森づくりプラン 2030（令和8年2月）

- ・金沢の農林業の持続的な発展と農山村の活性化に向けた、農林業従事者をはじめ、市民や農林業関係団体、国や県等と連携して各種施策を推進するための農林業振興の基本計画です。
- ・農業においては、加賀野菜や金沢そだち等の担い手育成や消費拡大等について、3つの基本方針と8つの重点施策を示しています。

基本方針と重点施策	
I 多様な担い手の育成・確保	<ul style="list-style-type: none">1. 地域農業を支える体制の構築支援2. 次世代を担う農業者の育成・確保3. 生産性向上のための基盤の整備
II 競争力と稼ぐ力を高める農業の確立	<ul style="list-style-type: none">1. 環境の変化に対応した農産物の安定生産2. ブランド力の向上と販売促進3. 地域に根ざした地産地消の推進
III 未来につなぐ農山村づくり	<ul style="list-style-type: none">1. 農山村のもつ多様な役割の維持・発揮2. 豊かな暮らしが根付く農山村の承継

3) 金沢の食文化の継承及び振興

- ・金沢の食文化の持続的な発展に寄与するため、「金沢の食文化の継承及び振興に関する条例」（平成25年10月）を制定し、市民・事業者・市の役割等を示しています。
- ・本市の大きな魅力・強みの一つに「食文化」を捉え、効果的・効率的に施策展開していくため、「金沢の食文化の魅力発信行動計画」を策定（第4期：2024年度～2026年度）し、関係団体と新しい食文化の価値を共創して「世界が認める食文化都市の実現」を推進しています。

■ 社会情勢の変化

1) 観光客の増加

- ・ 令和6年3月の北陸新幹線敦賀延伸により、北陸地域全体の観光資源への評価が高まっています。また、令和7年12月に加賀料理が国の無形文化財に登録されたこと等も合わせて、国内外からの本市内への観光入込客数の一層の増加が見込まれます。

2) 産地や品質を評価する消費行動の拡大

- ・ 全国的に地域農産物のブランド化が進み、地域農産物の歴史性、品質、伝統といった無形価値を経済的価値として評価する枠組みが定着してきています。また、品質、安全性、産地の明確さといった価格以外の価値を重視する消費者が一定程度存在し、食料品購入時の価値判断の基準が多様化してきています。

3) 食料自給率の向上に向けた農産物の生産力強化へのニーズの高まり

- ・ 近年の国際情勢や物流リスク、為替変動による輸入価格の高騰等を背景に、国内における安定的かつ持続可能な食料供給の重要性が高まっています。

4) 食生活や購入場所等の変化

- ・ 食料品の価格上昇による食費の増加や、ライフスタイルの変化による中食・外食の増加、食の簡便化など、食生活が変化してきているほか、食料品のEC市場は拡大傾向にあり、店頭販売だけでなくインターネットでの購入など、多様化してきています。



加賀料理の例（鯛の唐蒸し）



（治部煮）

第2章 金沢産農産物のブランド力向上の推進に向けた施策の体系

1. 課題の整理

加賀野菜及び金沢そだちの現状の把握とアンケート調査等の結果に基づき、課題を整理しました（詳細は資料1、2を参照ください）。

<統計データ等、計画策定過程における意見>

【生産】

統計データ等の整理

- ・ 農家戸数は、加賀野菜が約30%、金沢そだちが約10%減少（H26・27→R6）。
- ・ 出荷量は、加賀野菜、金沢そだちともに約10%減少（H26・27→R6）。
- ・ 約半数の農家が、後継者不在、人材不足や家族の高齢化等による労働力不足の問題を抱えている。
- ・ 多くの加賀野菜希少品目で農家戸数や出荷量が平成26年度と比べ大きく減少。
- ・ 栽培面積が1ha以下の品目は、加賀野菜が10品目、金沢そだちはなし。

計画策定過程における意見

- ・ スマート農業の導入が十分に進んでいない生産者が多い。
- ・ 産地の拡大や維持には「栽培技術の向上・継承」「高温化対策」が必要。

【流通】

統計データ等の整理

- ・ 加賀野菜のうち、出荷量が半減した品目は8品目、倍増した品目は1品目、金沢そだちは半減・倍増した品目はいずれもなし。
- ・ 金沢市での「加賀野菜」の認知度は95%。
- ・ 首都圏での「加賀野菜」の認知度は、京野菜、鎌倉野菜につづき、43%。
- ・ 首都圏での「金沢そだち」の認知度は12%、金沢市では45%。

計画策定過程における意見

- ・ 肥料・農機具等の生産コストの増大に加え、差別化が進んでいないことや販売コストの増大が課題として挙げられている。
- ・ 生産と加工のマッチング後のサポートの必要性や金沢そだちの新たな品目の追加が要望として挙げられている。
- ・ 規格外品等を加工して、翌年まで保存して提供してはどうか。
- ・ 加工品開発は製造者と意見交換しながら進めると消費拡大につながる。
- ・ 加賀野菜希少品目の差別化はそもそも難しい面がある。

【消費】

統計データ等の整理

- ・ 販売単価は、類似品目と比べて高い品目が見られる。
- ・ 加賀野菜の品目ごとの認知度は、金沢市で平均69%だが、首都圏では平均19%。
- ・ 金沢そだちの品目ごとの認知度は、金沢市で平均68%だが、首都圏では平均29%。

計画策定過程における意見

- ・ 料理を知らない若い人が多いので、簡単な調理方法とセットで発信することが必要。味を知ってもらうためには、食べる機会を作ることが大切。
- ・ 特に加賀野菜希少品目の販売場所がわからないという消費者の声がある。
- ・ 店舗を複数持つスーパーが、加賀野菜販売店登録認定のメリットを感じていない。

【上位関連計画】

- ・金沢市都市像「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」、未来共創計画
- ・金沢の農業と森づくりプラン 2030
- ・金沢の食文化の継承及び振興に関する条例 等

<現 状>

【生 産】

- ・担い手及び労働力が不足している。
- ・気候変動や労働力不足等に対応する栽培技術・省力化技術の普及が進んでいない。
- ・市内での産地拡大や技術継承等による生産振興を求める意見がある。
- ・後継者不在の農家が多く、生産が絶える品目が生じる懸念がある。

【流 通】

- ・品目で出荷量に差が生じている。
- ・出荷、販売時のコストが増加。
- ・加工品開発等による需要創出を必要とする意見がある。
- ・生産と加工のマッチング後のサポートが不足。
- ・金沢ブランド農産物の認知度が低い。
- ・金沢ブランド農産物の差別化が進んでいないことや新たな品目追加の検討を必要とする意見がある。

【消 費】

- ・類似品目より単価の高い品目があり、優位性がある。
- ・調理方法や販売場所がわからないと感じる市民、消費者が多い。
- ・取扱店に対して、明確なメリットを示す必要があるとの意見がある。
- ・首都圏等における個別品目の認知度は、加賀野菜、金沢そだちとも低い状況にある。

<課題の整理>

【生 産】

農業者の減少や労働力不足、高齢化の進行、夏季の高温化等による品質・収量の減少等が生じており、安定的な生産が求められています。

加賀野菜希少品目は特に農家戸数が少なく、出荷数量も平成 26 年度と比較して大きく減少しています。

【流 通】

品目により出荷量が異なり、生産者や流通事業者、実需者等が連携した効果的な需要創出や販売促進が必要です。

特に希少品目は農家戸数や出荷量が少なく、市場での需要確保が求められます。

また、市民の「加賀野菜」の認知度は高いものの、首都圏での認知度は他地域のブランド農産物に及んでいません。

「金沢そだち」の認知度は市内、首都圏とも低い状況です。

【消 費】

販売場所がわからないなど、市民が身近にブランド農産物を手に入れにくく、また、調理方法がわからないなど、地産地消を進めるための課題があります。

また、首都圏での加賀野菜、金沢そだちの品目ごとの認知度は低く、首都圏における情報発信を強化し、消費の拡大を図ることが求められます。

2. 施策体系

<課 題>

【生産の課題】

課題1:

担い手や労働力の確保

課題2:

安定供給に向けた栽培技術の普及や生産環境の改善

課題3:

加賀野菜希少品目の生産の維持、拡大

【流通の課題】

課題4:

出荷量やニーズ、コスト等を踏まえた流通体制の改善

課題5:

加工品開発におけるサポート不足の改善と需要創出

課題6:

ブランド農産物の認知度向上や販売促進

【消費の課題】

課題7:

消費者の理解促進に向けた、地元支持を高める地産地消や食育環境と仕組みの改善

課題8:

首都圏等における情報発信・ブランド訴求の充実

<生産・流通・消費の各施策の方向性>

【生産の方向性】

方向性Ⅰ

安定した生産体制の確立と品質の向上

加賀野菜や金沢そだちの安定的な生産及び次世代への継承に向け、新たな担い手の育成と多様な労働力の確保に取り組みます。

また、社会情勢や栽培環境等の変化に応じた生産体制を強化することで、各品目の安定供給に努めるとともに、加賀野菜の中でも希少な品目については、維持及び拡大を推進します。

【流通の方向性】

方向性Ⅱ

競争力のあるブランドの育成

市内外で多くの方に金沢ブランド農産物を食べてもらうため、新たな販路の開拓や、関係者及び他業種との連携強化を図ります。また、加賀野菜希少品目の需要拡大に向けた取組を推進するとともに、金沢ブランド農産物の更なる認知度向上や販売促進に向けた取組を強化します。

【消費の方向性】

方向性Ⅲ

食文化の魅力発信を通じた金沢ブランド農産物の消費の拡大

金沢の食文化の継承に向け、市民の金沢ブランド農産物への愛着を育むことによる地産地消や、首都圏等における消費拡大に向けた取組を推進します。また、子どもをはじめとした食育環境の充実や、食文化に関する情報発信・体験活動を充実させることで、金沢の食文化の継承に取り組みます。

< 施策（大区分） >

< 施策（中区分） >

1. 担い手の育成・支援と労働力の確保

- ①金沢農業大学校の研修体制の充実・修了生への支援
- ②新規就農者等の育成・支援と既就農者の取込み
- ③多様な労働力の確保

2. 社会情勢や環境に即した金沢ブランド農産物の安定供給

- ①地球温暖化に対応した安定生産と省力化技術の普及推進
- ②栽培技術の継承
- ③生産管理の徹底
- ④市内産地拡大の検討

3. 加賀野菜希少品目の維持、拡大

- ①種の保存に向けた栽培技術の継承
- ②加賀野菜希少品目の担い手の掘り起こし

1. 販路開拓と農商工連携の強化

- ①生産者、流通事業者、実需者の連携強化
- ②集出荷施設等の合理化による流通体制の省力化
- ③加工品開発等のサポート体制の充実

2. 加賀野菜希少品目の需要拡大

- ①加工品開発等の取組支援
- ②希少性に着目した飲食店等での需要の確保
- ③多様な主体との連携による産地の活性化

3. ブランド認知度の更なる向上と販促活動の強化

- ①ブランド認知度の更なる向上に向けた PR 活動の実施
- ②販売促進方法の充実
- ③金沢ブランド農産物の新たな品目や希少品目対象の検討

1. 地産地消の推進による消費拡大

- ①加賀野菜販売店の拡大と連携強化
- ②金沢産農産物を食べる機会の創出

2. 首都圏等における消費拡大

- ①首都圏等における誘客促進と消費拡大

3. 食文化の継承に向けた食育の推進

- ①園児や小学生等を対象とした食育環境の充実
- ②食べ方や調理方法の発信
- ③食文化に触れる機会の確保

第3章 金沢産農産物のブランド力向上の推進に向けた施策内容

1. 生産における施策

【方向性Ⅰ】安定した生産体制の確立と品質の向上

施策1 担い手の育成・支援と労働力の確保

農業従事者の高齢化や人口減少による労働力不足が進む中、新規就農時の負担の大きさ等もあり、金沢ブランド農産物の農家戸数は減少しています。このため、金沢農業大学校における人材育成の充実及び修了生への各種支援を推進します。また、既就農者の生産者組織への加入支援や他産地・他産業との連携による労働力確保策についても検討します。

① 金沢農業大学校の研修体制の充実・修了生への支援

- ・金沢農業大学校における人材育成・カリキュラムの見直し
- ・修了生等への就農支援・フォローアップの充実
(農地借上、土地基盤整備、農業機械・施設整備、圃場巡回・営農相談等の指導強化 等)



金沢農業大学校での基本研修（トマトの定植）



修了生への巡回指導

<金沢農業大学校の概要>

■金沢農業大学校について

- ・金沢農業大学校は、金沢市の農業の担い手を育成するため、平成18年3月に設置され、これまでに157名が研修を修了（令和8年1月31日時点）
- ・2年間の研修を通じて、新しい農業の担い手を育成

■対象

- ・金沢市内で就農できる方
- ・18歳以上65歳以下の方

■研修期間等

- ・研修期間：2年間
- ・研修日：基本研修 週2日

■研修内容

- ・野菜の栽培技術等を習得するための講義、実習等



販売体験研修

② 新規就農者等の育成・支援と既就農者の取込み

- ・新規就農者への各種支援
- ・農業に興味のある者向けの農業体験セミナーの開催
- ・新規就農に関する情報提供（金沢市農地バンク、助成制度等）
- ・地域や産地での受入体制の整備
（受入ルール作り、勉強会開催、生産者組織への加入促進等）
- ・既就農者が新たに加賀野菜を作付けする際の生産者組織への支援



農業体験セミナー

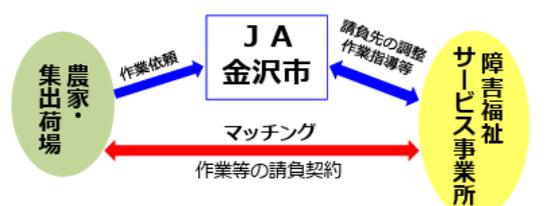


新規生産者への栽培指導

③ 多様な労働力の確保

- ・女性の労働環境の整備
- ・他産地・他産業との労働力の融通など、連携体制の構築
- ・農福連携のほか、アクティブシニアやボランティアの活用など、新たな労働力確保の検討

<JA 金沢市における農福連携の概要>



- ・マッチング数の増加（H30年度1件 → R5年度20件）
- ・繁忙期に、まとまった労働力の確保が可能
- ・障害者に多様な作業を紹介することで、労働意欲増進
- ・訪問先農家やJA広報誌での取組紹介で、他農家に波及



農福連携による野菜の荷受け作業の様子

<KPI（重要業績評価指標）>

指標	現状（R6年度）	目標（R12年度）
加賀野菜の農家戸数	312人	312人
金沢そだちの農家戸数	175人	175人

施策2 社会情勢や環境に即した金沢ブランド農産物の安定供給

近年の夏季の高温化や農業生産資材の高騰、農業従事者の高齢化の進行、担い手不足、市街化に伴う農地の点在化等を背景に、品質・収量の低下や技術継承の課題が顕在化しています。このため、地球温暖化等の環境変化に対応した技術の確立や省力化技術の普及を進めるとともに、栽培技術の継承に継続して取り組みます。また、市内産地の拡大に向けた調査・検討を行います。

① 地球温暖化に対応した安定生産と省力化技術の普及推進

- ・産地課題に対応する試験研究や栽培実証圃の設置
- ・農業機械やパイプハウス等の機械・施設の導入支援
- ・高温化対策技術の確立・普及（軒高ハウス・遮光資材・新作型検討等）
- ・耐暑性の品種等の導入検討・普及
- ・産地における作業の効率化を図るスマート農業機械等の実証
- ・スマート農業技術の情報提供、研修会等の開催、スマート農業機械の導入支援
- ・優良種苗の選抜・育成や保存・供給



高温化対策技術（軒高ハウス）



スマート農業機械（ドローン）

② 栽培技術の継承

- ・「農の匠」による技術講習会の実施
- ・技術の継承に向けた巡回指導等の実施
- ・生産者間の意見交換会の開催（肥培管理や新技術への対応等）



「農の匠」による技術指導



生産者の意見交換会

③ 生産管理の徹底

- ・ 環境保全型農業への理解促進等
- ・ 安全安心な生産と農業経営改善のための農業生産工程管理(GAP)の普及・徹底
- ・ 品質向上や安定生産のための適切な肥培及び防除管理の周知・徹底
(栽培講習会、圃場巡回による指導強化)
- ・ 気象や病害虫発生及びその対策等に関する情報の提供
- ・ 出荷規格の統一化のための格付け講習会の開催



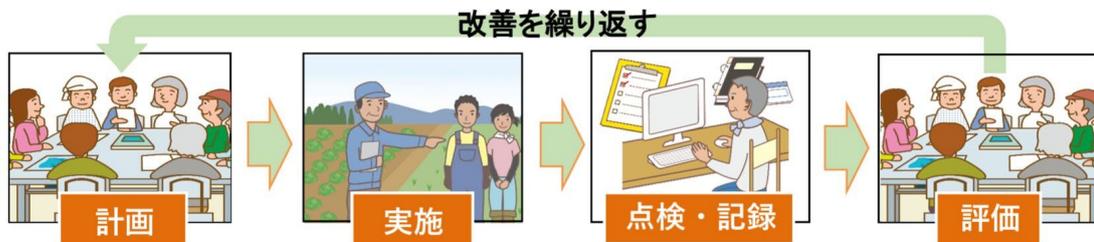
栽培講習会



格付け講習会

< 農業生産工程管理(GAP)の概要 >

- ・ GAP (Good Agricultural Practices : 農業生産工程管理) は、農業生産の各工程の実施、点検・記録、及び評価を行うことによる持続的な改善活動を指す
- ・ 農林水産省では、「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」「農業経営管理」の5分野を含む GAP を国際標準 GAP と呼称し、ガイドラインを策定し普及を推進



出典：農林水産省 農産局農業環境対策課 資料「GAP（農業生産工程管理）をめぐる情勢」（令和7年10月）

④ 市内産地拡大の検討

- ・ 認定農業者や集落営農など、多様な担い手への農地の集積と基盤整備等への支援
- ・ 適地及び新たな作型の調査・検討

< KPI（重要業績評価指標） >

指標	現状（R6年度）	目標（R12年度）
加賀野菜・金沢そだちの1戸あたり生産量	46,634kg	51,297kg

施策3 加賀野菜希少品目の維持、拡大

加賀野菜希少品目については、直近の約10年間で、農家戸数及び栽培面積が大きく減少しており、一部の品目においては、継続的な生産が課題となっています。このため、栽培技術の継承や、生産を担う人材の育成・確保に取り組むとともに、加賀野菜希少品目の生産の維持・拡大に取り組みます。

① 種の保存に向けた栽培技術の継承

- ・加賀野菜希少品目を次世代に継承するため、金沢農業大学校等の取組を強化
- ・「農の匠」による技術講習会の実施（再掲）
- ・技術の継承に向けた巡回指導等の実施（再掲）
- ・生産者間の意見交換会の開催（肥培管理や新技術への対応等）（再掲）



農業センターでの加賀野菜希少品目栽培（左：二塚からしな、右：ヘタ紫なす）

② 加賀野菜希少品目の担い手の掘り起こし

- ・個人で栽培している生産者を生産者組織へ加入促進する方法を検討
- ・加賀野菜希少品目の栽培推進に向けた講習会の開催
- ・集落営農や大規模園芸農家による転作作物としての加賀野菜希少品目の生産推進
- ・金沢農業大学校における里親農家研修の充実



講習会



里親農家研修

<KPI（重要業績評価指標）>

指標	現状（R6年度）	目標（R12年度）
加賀野菜希少品目の農家戸数	22戸	24戸

2. 流通における施策

【方向性Ⅱ】競争力のあるブランドの育成

施策1 販路開拓と農商工連携の強化

物価高騰や人手不足等により販売・流通コストが増加する中、消費者ニーズの多様化や他地域のブランド農産物との競争の激化を背景に、販路拡大の重要性が高まっています。あわせて、規格外品の有効活用に向けた加工品づくりが求められていますが、生産者が加工・販売までを担うには大きな負担が伴います。そのため、農業、商業、工業が連携する農商工連携を軸に、生産者、流通事業者、実需者間の連携の強化による販路の拡大や流通の省力化、加工品開発を推進し、金沢ブランド農産物のブランド力の向上を図ります。

① 生産者、流通事業者、実需者の連携強化

- ・市内流通量の確保と量産可能な品目の市外流通の拡大
- ・生産から流通、消費までを通じた品質の保持に向けた取組の検討
- ・市内外の市場やスーパー等での消費宣伝活動の実施
- ・金沢ブランド農産物の消費拡大に向けた加賀野菜販売店登録制度の活用
- ・食品メーカーやホテル等の大型実需者への提案及び共同企画の実施



豊洲市場における消費宣伝活動



東京都板橋区の商店街でのスポット出店

<加賀野菜販売店登録制度の概要>

■目的

- ・加賀野菜を販売する店を登録し、市民、観光客の皆様幅広く加賀野菜をPRし、加賀野菜の生産振興や消費の拡大、ブランド力の向上を推進すること

■登録対象

- ・青果店・スーパー等

■登録の要件

- ・優れた品質として「加賀野菜ブランドシール」の使用を認められた加賀野菜を積極的に販売していること
- ・適切な加賀野菜の仕入れレートを有すること



加賀野菜ブランドシール

② 集出荷施設等の合理化による流通体制の省力化

- ・ 流通の省力化に向けた集出荷施設等の整備支援
- ・ 貯蔵性を高める設備の充実



集出荷施設



キュアリング貯蔵施設

③ 加工品開発等のサポート体制の充実

- ・ コーディネーターによる入口から出口までの支援
- ・ 各種制度を活用した施設整備等への支援
- ・ 一次加工事業者とのマッチングの実施

<KPI（重要業績評価指標）>

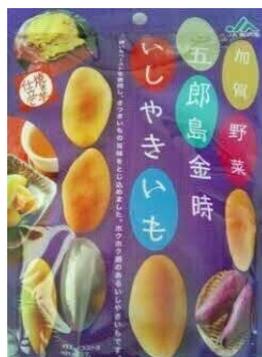
指標	現状（R6 年度）	目標（R12 年度）
加工品の開発支援数	2件 (5年通算)	5件 (5年通算)
加賀野菜販売店登録制度の登録数	51 店舗	87 店舗

施策2 加賀野菜希少品目の需要拡大

加賀野菜希少品目は生産量が少なく、継続的な生産が課題となっています。生産量の維持・拡大を図るには、栽培技術の継承や担い手の育成に加え、市場での需要を確保することが必要となります。このため、食産業関連事業者等が行う加工品開発等の取組を支援するほか、スーパーや飲食店等における需要の確保に努めます。また、大学をはじめとした多様な主体との連携を通じて、産地の活性化を図ります。

① 加工品開発等の取組支援

- ・ 長期間の保存を可能とする一次加工を含む加工品開発等の支援



製品化された加工品の例（左：たけのこの水煮、右：さつまいもの菓子）

② 希少性に着目した飲食店等での需要の確保

- ・ スーパー等での加賀野菜の伝統的な食べ方による惣菜等の試食販売の促進
- ・ 加賀野菜希少品目を用いた市内飲食店等でのメニューの開発・定番化の促進



スーパーでの惣菜の試食販売



加賀野菜希少品目のメニュー例（赤ずいき）

③ 多様な主体との連携による産地の活性化

- ・加賀野菜希少品目による特産品づくりの推進
- ・大学等と連携したレシピ開発・動画発信等の産地の活性化と PR 活動の推進



大学と連携したレシピ開発のイメージ



加賀野菜希少品目動画の発信のイメージ

<KPI（重要業績評価指標）>

指標	現状（R6 年度）	目標（R12 年度）
加賀野菜希少品目の PR 実施回数	2 回/年	2 回/年
加賀野菜希少品目の生産量	6,006kg	6,607kg
加賀野菜希少品目の農家戸数（再掲）	22 戸	24 戸

<加賀野菜希少品目の一覧>



ハタ紫なす



金沢せり



加賀つるまめ



二塚からしな



赤ずいき



くわい

画像提供：金沢市農産物ブランド協会

施策3 ブランド認知度の更なる向上と販促活動の強化

観光客の増加や消費者ニーズの変化など、社会情勢が変化している中、販売促進に向けた認知度の向上が課題となっています。「加賀野菜」が金沢市内で高い認知度を有する一方、そのブランドマークや首都圏等での認知度、「金沢そだち」の認知度は十分とはいえません。こうした状況を踏まえ、伝統野菜の物語性を活かした情報発信や料理と組みあわせたPR活動を進めるとともに、店舗販売からオンライン販売まで、多様な販売形態に対応した販売促進に取り組みます。また、新たな対象品目の検討を通じて、金沢ブランド農産物の認知度向上を図ります。

① ブランド認知度の更なる向上に向けたPR活動の実施

- ・首都圏等の飲食店やインフルエンサーと連携した、料理を通じたPRの実施
- ・観光案内所等での観光客向け催事の実施
- ・生産者や加賀野菜販売店への取材、金沢の食文化との関連性を取り入れたストーリー性のある情報の収集と発信
- ・生産から購入、調理、飲食等に関する情報の一元化と体系化
- ・PR映像や加賀野菜イメージキャラクターを活用した市内外でのPR活動の実施
- ・各種メディアや団体の活動に対する情報提供及び協賛等の支援



インフルエンサーによる加賀野菜の魅力発信

かがやく
美味しさ



加賀野菜
KAGA VEGETABLES

加賀野菜のブランドマーク



金沢産農産物の食育動画の発信（金沢春菊）



加賀野菜イメージキャラクター・ベジタン

② 販売促進方法の充実

- ・効果的な販売促進方法の企画と実施（シールキャンペーンや販売店舗を明示したPR等）
- ・既存販売促進方法の改善（販促資材の内容更新、イベント用資材・ノベルティの充実）
- ・オンライン販売の周知支援
- ・大手民間事業者とのタイアップ企画等によるPRの検討と実施

ほがらか村金沢野菜セット（加賀野菜2〜3種含む約10種）

JA金沢市の農産物直売所「ほがらか村」が今一番旬の野菜を詰め合わせにてお届けします。



JAタウンでのオンライン販売



使用している販促資材・ノベルティ

③ 金沢ブランド農産物の新たな品目や希少品目対象の検討

- ・金沢そだちの新たな品目の調査と検討
- ・加賀野菜希少品目の対象の見直し検討
- ・栽培方法や産地等にこだわりを持った生産による高付加価値化の推進



金沢そだちのトップセールス



<KPI（重要業績評価指標）>

指標	現状（R7年度）	目標（R12年度）
認知度の低い加賀野菜9品目※の市民の認知度	55%	66%
金沢そだちの市民の認知度	45%	93%

※くわい(66%)、金沢春菊(63%)、打木赤皮甘栗かぼちゃ(61%)、金沢せり(54%)、金沢一本太ねぎ(54%)、赤ずいき(52%)、加賀つるまめ(51%)、へた紫なす(48%)、二塚からしな(46%)

3. 消費における施策

【方向性Ⅲ】食文化の魅力発信を通じた金沢ブランド農産物の消費の拡大

施策1 地産地消の推進による消費拡大

伝統野菜を全国的に認知させ、持続させるためには、地元での利用拡大が重要です。一方で、市民が金沢ブランド農産物をどこで買えるのかわからないなど、日常的に購入しにくい状況や、食の外部化の進展、市民一人当たりの農産物消費量の減少等の課題があります。こうした課題に対応するため、加賀野菜販売店が登録することに魅力を感じる取組を行い、登録拡大による購入環境の整備や金沢港産の水産物と連携した飲食店等での提供促進等を通じて、地産地消を推進します。

① 加賀野菜販売店の拡大と連携強化

- ・多様な媒体を通じた加賀野菜販売店登録制度のPR強化
- ・加賀野菜販売店の登録拡大に向けた伝統的な料理等を用いた取組の充実（販売店舗名等の露出強化、販促案の提示等）
- ・効果的な販売促進方法の企画と実施（SNSによる販売店舗を明示したPR等）（再掲）
- ・加賀野菜の品目ごとの生産量に合わせた加賀野菜販売店でのキャンペーンの実施
- ・加賀野菜販売店関係者等を対象とした産地見学会、講習会の開催



加賀野菜販売店登録証（見本）



加賀野菜販売店での販売

② 金沢産農産物を食べる機会の創出

- ・地元水産物（海幸金沢等）と連携した、飲食店等での活用促進に向けた取組
- ・生産者の顔が見える金沢産農産物の発信

<金沢産農水産物を用いた金沢産食材フェアの開催>

■開催意図

- ・加賀野菜や海幸金沢に代表される地元食材を惜しげもなく使った旬の料理で、市民や来街者に金沢産農水産物の魅力を発信する

■開催場所

- ・ハイアット セントリック 金沢 3階
「FIVE - Grill & Lounge」

■開催内容

- ・旬の加賀野菜や海幸金沢をはじめとした地元食材をふんだんに用いた特別メニューを期間限定で提供



金沢産農産物と海幸金沢を使用したコースメニュー

<KPI（重要業績評価指標）>

指標	現状（R6 年度）	目標（R12 年度）
加賀野菜大量品目の生産量	3,804t	4,184t
加賀野菜希少品目の生産量（再掲）	6,006kg	6,607kg
金沢そだちの生産量	10,641t	11,705t
加賀野菜販売店登録制度の登録数（再掲）	51 店舗	87 店舗
市内での加賀野菜・金沢そだちの PR 実施回数	10 回 （5 年通算）	30 回 （5 年通算）

施策2 首都圏等における消費拡大

北陸新幹線敦賀延伸等の影響により、本市への観光入込客数は増加傾向にあります。一方で、首都圏等における金沢ブランド農産物の認知度は、依然として伸び悩んでいます。このため、首都圏等の飲食店や友好交流都市等との連携によるPR活動の強化を図るなど、金沢への誘客を通じた地産地消の推進と、首都圏をはじめとする全国での消費拡大に取り組みます。

① 首都圏等における誘客促進と消費拡大

- ・首都圏等の飲食店と連携した料理を通じたPRの実施
- ・友好交流都市等におけるPRの実施
- ・大手民間事業者とのタイアップ企画等によるPRの検討と実施（再掲）
- ・ふるさと納税の活用推進

<旬の金沢食材フェア（日本料理 大志満）>

■開催意図

- ・首都圏において、金沢産農水産物の魅力をPRする

■開催場所

- ・日本料理「大志満」3店舗（椿壽丸ノ内店、新橋汐留店、横浜店）

■開催期間

- ・通年で開催（概ね2か月でメニュー内容を変更）

■開催内容

- ・東京・横浜のホテル内に3店舗を持つ日本料理店の「大志満」にて、四季を通じて、旬の金沢産食材を使用したメニューを提供する「旬の金沢食材フェア」を開催



旬の金沢食材フェア

<ふるさと納税の返礼品としての加賀野菜の活用>

■内容

- ・金沢市へのふるさと納税の返礼品として、加賀野菜を活用

- ・定番として加賀野菜を最低2種類に加え、JA金沢市直売所ほがらか村から厳選した旬の野菜を入れたおすすめセットとして、合計約10種類の金沢産農産物を返礼品として提供



ふるさと納税返礼品（出典：ふるさとチョイス）

<KPI（重要業績評価指標）>

指標	現状（R6年度）	目標（R12年度）
首都圏等での加賀野菜のPR実施回数	10回 （5年通算）	20回 （5年通算）

施策3 食文化の継承に向けた食育の推進

金沢ブランド農産物の消費拡大には、地域の農業や食文化への理解を深めることが不可欠です。しかし、おいしく食べるための調理方法や伝統的な料理そのもの知らない市民も多くいます。このため、子どもの頃からの食育の充実や家庭での調理に向けた調理方法の発信等のほか、金沢の食文化に触れる機会の提供により、幅広い世代を対象に、地域食材への愛着を育てる取組を行っていきます。

① 園児や小学生等を対象とした食育環境の充実

- ・ 園児や児童が農と食を関連付けて理解するための農業体験の推進
(学校体験農園、金沢おやこ農業塾等)
- ・ 学校給食を通じた食べる機会の創出や生産者との交流
- ・ 加賀野菜希少品目の学校給食での生産量に応じた使用
- ・ 学校授業における地産地消に関する副読本の活用
- ・ 金沢市食育推進計画と連携した総合的な食育活動の実施



副読本「みんなで学ぼう!加賀野菜」の活用



生産者交流会の様子

<金沢おやこ農業塾の開催概要>

■対象

- ・ 金沢市在住の小学1～6年生とその保護者

■内容(令和7年度実績)

- ・ 加賀野菜の「金時草」や「さつまいも」、
「源助だいこん」の栽培
- ・ すいかの産地収穫体験



金沢おやこ農業塾の様子

② 食べ方や調理方法の発信

- ・スーパー等での加賀野菜の伝統的な食べ方による惣菜等の試食販売の促進
- ・現代の食生活に取り入れやすい調理レシピの開発
- ・スーパー等や SNS、リーフレットを活用した伝統料理や家庭料理レシピの発信
- ・金沢ブランド農産物を使用した市民向け料理教室の開催や支援



開発したレシピのリーフレット（おいしい加賀野菜レシピの本）

③ 食文化に触れる機会の確保

- ・金沢の食文化を背景としたイベントの開催
- ・金沢ブランド農産物オーナー制度の拡充
- ・市民を対象とした産地見学会の実施
- ・金沢湯涌みどりの里等の施設を活用した、農と食を楽しむ体験型イベントの実施
- ・金沢の食文化の魅力発信行動計画と連携した情報発信と PR 活動の実施



金沢食文化月間との連携



金沢湯涌みどりの里における大根栽培

< KPI（重要業績評価指標） >

指標	現状	目標（R12年度）
学校等での生産者交流会の実施回数	36回/年 (R6年度)	39回/年
レシピ動画の平均再生回数	524回 (R7年度)	1,000回

第4章 推進体制

1. 各関係者の役割

(1) 市民の役割

市民は、金沢ブランド農産物の消費に対する関心を高め、金沢市農産物ブランド協会が進める施策に協力・参画するとともに、金沢ブランド農産物の振興に向け、積極的な購入や、市内外に住む家族、友人、知人に対する魅力の発信を通じて、地産地消を支えることが期待されます。

(2) 生産者の役割

生産者は、農業協同組合や流通事業者、食品産業関連事業者、市と連携し、環境負荷の低減や消費者ニーズに対応した生産に取り組みながら、新鮮で安全・安心な金沢ブランド農産物の安定的な供給に努めるとともに、担い手の育成・確保を通じて、生産技術を次世代へ継承することが期待されます。

(3) 農業協同組合の役割

農業協同組合は、営農・販売指導、購買事業、信用事業、共済事業等により、生産者の経営と生活を支援するとともに、生産者や流通事業者、食品産業関連事業者、市と連携し、生産者組織・産地の育成、直売所等の販売拠点や販売先等での情報発信を通じて、金沢ブランド農産物の振興に努めることが期待されます。

(4) 流通事業者の役割

流通事業者は、生産者、農業協同組合、食品産業関連事業者、市と連携し、消費者ニーズや各品目の生産状況に配慮した流通体制の充実に努めるとともに、金沢ブランド農産物の販路拡大に向け、情報発信に取り組むことが期待されます。

(5) 食品産業関連事業者（飲食事業者等）の役割

食品産業関連事業者は、生産者、農業協同組合、流通事業者、市と連携し、金沢ブランド農産物を用いた料理や商品の提供、調理方法や食文化の発信等に取り組むとともに、加賀料理をはじめとした金沢の食文化の継承及び振興に向け、知識や技術の継承や発展に寄与することが期待されます。

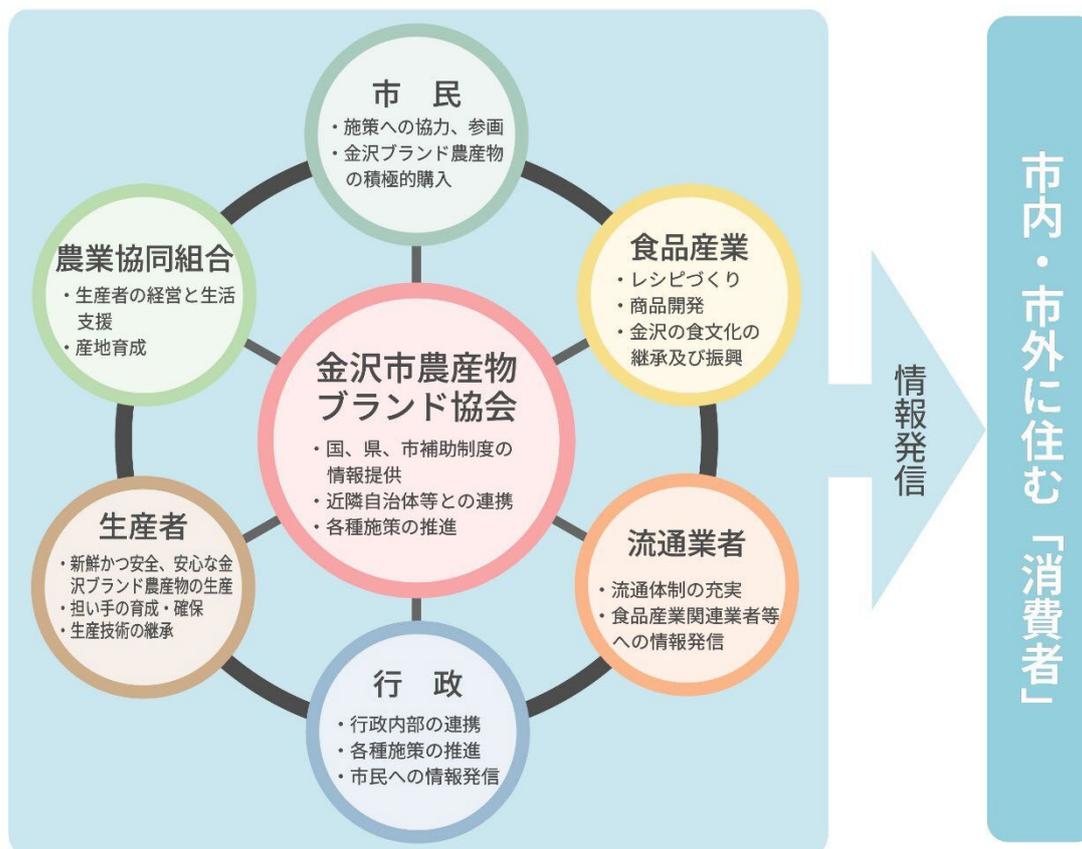
(6) 行政の役割

行政は、関係部局間や各種まちづくり施策と連携しながら金沢ブランド農産物のブランド価値の向上に向けた施策を推進し、農業センターにおいて研究や技術開発、種苗の保存を行うとともに、生産者や農業協同組合、流通事業者、食品産業関連事業者の取組を市民へ広く情報発信するよう努めます。

(7) 金沢市農産物ブランド協会の役割

金沢市農産物ブランド協会は、生産者や農業協同組合、流通事業者、食品産業関連事業者に対して、国・県・市にて実施されている補助制度等の情報提供や取組の支援を実施するとともに、市民や各事業者、近隣自治体等と連携し、金沢ブランド農産物の振興に向けた各種施策を総合的・計画的に推進します。

<推進体制イメージ図>



2. 戦略の進捗管理

(1) 施策の取組状況の把握と検証

本戦略に基づく施策の取組状況については、各種統計データにより現状を把握するとともに、施策の実施状況から効果を検証し、金沢ブランド農産物を取り巻く社会情勢の変化を踏まえながら、必要に応じて施策の見直しを行います。

(2) 施策の取組状況等の公開による関係者との情報共有

本戦略に基づく施策の検証結果等の情報を公表し、市民や生産者、農業協同組合、流通事業者、食品産業関連事業者と情報を共有します。

資料編

資料1. 金沢ブランド農産物の現状

1. 加賀野菜

1) 概要

- ・加賀野菜は、1997年（平成9年）の金沢市農産物ブランド協会発足を期に「1945年（昭和20年）以前から栽培され、現在も主として金沢で栽培されている野菜」の定義のもと、15品目が認定されています。

<加賀野菜の概要>

項目		内容
認定機関		金沢市農産物ブランド協会
定義		1945年（昭和20年）以前から栽培され、現在も主として金沢で栽培されている野菜
加賀野菜	【品目】 さつまいも 	1700年頃、当時の五郎島村の肝煎であった太郎右衛門が、薩摩（現在の鹿児島県）から種芋を持ち帰り、砂丘地で栽培したのがはじまりとされています。 さつまいもは、やせた土地でも栽培でき、水の管理がしやすいことから、主に粟崎・五郎島町の砂丘地で栽培されています。
	【主な産地】 粟五地区、大野地区、大徳地区	中心産地である五郎島の名をとった「五郎島金時」はそのおいしさが全国に知られ、今では加賀野菜を代表する野菜の一つとなっています。
	【出荷時期】 8月～5月	あまさが強く、金沢弁で「こっぼこぼ」というホクホクした食感が特徴です。
	【品目】 加賀れんこん 	食用として盛んに栽培され始めたのは、明治時代以降のことです。その後何度か品種改良がされ、昭和40年代中頃にできた品種「支那白花」が、現在の加賀れんこんの品種です。 加賀れんこんの栽培は小坂地区で始まり、その後河北潟干拓地に広がり、現在では河北潟干拓地が一大産地となっています。
【主な産地】 小坂地区、河北潟	加賀れんこんは、でんぷん質をたくさん含んでいることから粘り気が強く、もっちりした食感とシャキシャキの歯ごたえが楽しめます。	
【出荷時期】 8月～5月		

出典：金沢市農産物ブランド協会ホームページ（以下、同様）

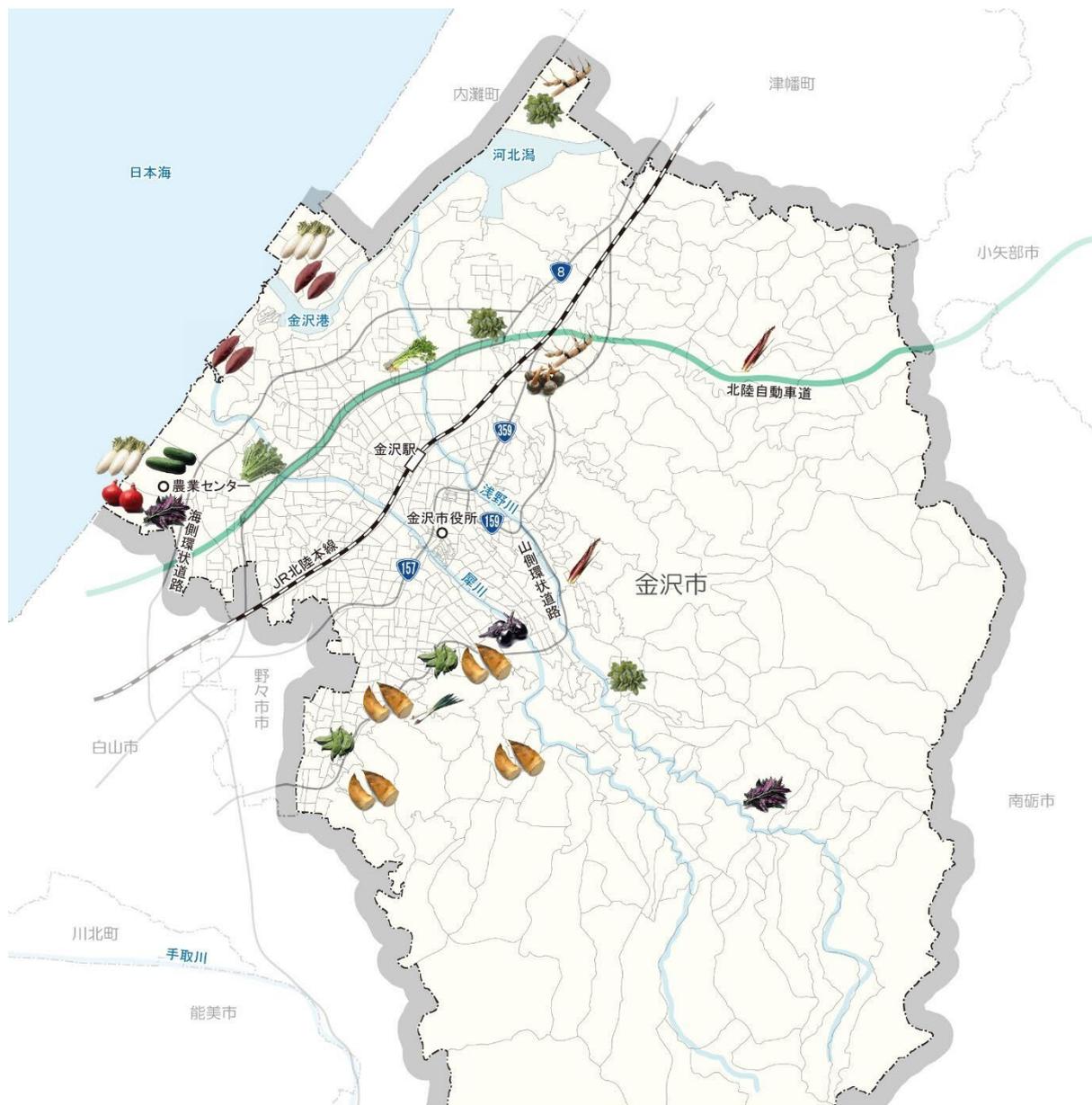
	項目	内容
加賀野菜	【品目】 たけのこ 	<p>江戸時代中期に、岡本右太夫という足軽が、孟宗竹という竹を江戸から持ち帰り、桜木（現在の寺町）に植えたことが始まりとされています。</p> <p>大正から昭和の中頃にかけて、内川地区で栽培が拡大し、たけのこの缶詰工場がつくられるなど、金沢では全国に先駆けて、たけのこの生産振興が進められてきました。</p> <p>えぐみが少なく、やわらかいのが特徴です。金沢は全国の産地の中でも、最も北にある産地であり、粘土質の土壌と雪が、身のひきしまった甘くやわらかいたけのこを作ります。</p>
	【主な産地】 内川地区、富樫地区、金城地区、額地区	
	【出荷時期】 4月～5月	
加賀野菜	【品目】 加賀太きゅうり 	<p>昭和初期に久安の農家・米林利雄さんが、東北地方で栽培されていた短くて太いきゅうりの種を譲り受うけ、栽培したのが加賀太きゅうりのはじまりです。その後、金沢で栽培されていた「加賀ふしなりきゅうり」と自然にかけあわさり、昭和27年頃ごろに今の加賀太きゅうりとなりました。</p> <p>産地は打木地区へと移り、栽培方法も露地栽培からハウス栽培や温室栽培に変わりました。</p> <p>その名のとおり、普通のきゅうりと比べてとても大きいのが特徴です。果肉が厚くやわらかで、風味がよく日持ちします。</p>
	【主な産地】 安原地区	
	【出荷時期】 4月～11月	
加賀野菜	【品目】 金時草 	<p>正式な和名は「スイゼンジナ」で、葉の裏が鮮やかな赤紫色で金時芋に似ていることから、金沢では「金時草」と呼ばれるようになりました。大正時代に花園地区の地代町の職人が県内のどこかから持ち帰り、その息子が昭和初期から料理屋向けに栽培を始めたところ、村の人も関心を持ち、次第に栽培が広まったと言われています。</p> <p>葉の表側は緑色、裏側は鮮やかな赤紫色をしています。やわらかく、ゆでるとぬめりが出るのが特徴です。葉にはアントシアニンという色素が含まれていて、酢等により酸性になると、赤紫色がより鮮やかになります。</p>
	【主な産地】 湯涌地区、安原地区	
	【出荷時期】 周年出荷（露地栽培とハウス栽培あり）	
加賀野菜	【品目】 へた紫なす 	<p>明治22年頃、有松、泉地区で栽培されていたなすから選ばれたものがもととされています。</p> <p>昭和40年代の後半に生産がピークとなりましたが、その後、栽培しやすいなすが普及し、へた紫なすは、現在崎浦地区でわずかに生産されるのみとなりました。</p> <p>普通のなすはへたの下が白いのに対し、へた紫なすはへたの下が紫色を帯びていることからその名がつけられました。小ぶりで卵形、皮はうすく、果肉はやわらかくあまみがあります。</p>
	【主な産地】 崎浦地区	
	【出荷時期】 7月～10月	

項目		内容
加賀野菜	【品目】 源助だいこん 	<p>金沢では、明治初期から青首大根が栽培されていました。あるとき漬物屋が白首大根のほうがおいしいということから、種を取り寄せて栽培すると青首と白首がかけあわさり、首が青く、短い大根が生まれました。これを開発したのが松本佐一郎さんで、このときのアドバイザーが愛知県の生産者・井上源助さんです。源助だいこんの名前は、アドバイザーの名前が由来となっています。</p>
	【主な産地】 安原地区、粟五地区	
	【出荷時期】 10月～2月	<p>ずんぐりとした形をしています。あまみが強くてやわらかく、じっくり煮込んでも煮崩れしにくいのが特徴です。</p>
	【品目】 金沢せり 	<p>本格的に栽培されるようになったのは、明治に入ってからのことです。浅野川の伏流水により、豊富で清らかなわき水に恵まれた諸江地区で栽培が増えました。</p> <p>昭和40年頃からわき水の量が減ったので、今は井戸から電気ポンプでくみ上げた水で栽培しています。</p>
	【主な産地】 諸江地区	<p>金沢で栽培されているせりは茎の長さが40cmと長く、全国でも最も茎が細い部類です。やわらかく、えぐみが少ないのが特徴です。</p>
	【出荷時期】 12月～4月	
	【品目】 打木赤皮甘栗かぼちゃ 	<p>昭和初期に打木町の農家・松本佐一郎さんが、福島県から「会津栗」、「甘栗」と呼ばれる種類の種を手に入れたことがはじまりです。その後、味と色が良いものを選びながら種を採り、十数年にわたり研究し作り上げました。関東や関西で人気がありましたが、別の品種の生産が増え、消費者の好みも変化したことから一度は需要が減り生産も減ってしまいました。現在は価値が見直され市場への出荷も次第に増えています。</p>
	【主な産地】 安原地区	
	【出荷時期】 6月～8月	<p>鮮やかな朱色で、先のとがった栗型のかわいらしい形をしています。果肉は厚く、あまくてしっとりとした食感が特徴的です。</p>
【品目】 金沢一本太ねぎ 	<p>いつ頃から栽培されていたかはさだかではありませんが、長野県松本地方から持ち込まれたとされています。古くは、「加賀ねぎ」、「金沢一本」、「金沢太ねぎ」、「金沢根深ねぎ」等と呼ばれていました。東北や北海道でも栽培され、寒冷地の代表的な品種でしたが、昭和30年代後半に栽培しやすい品種が発表されるとそれに押され、栽培する農家が少なくなりました。主な産地は金城地区（長坂、野田周辺）や富樫地区です。</p>	
【主な産地】 金城地区、富樫地区		
【出荷時期】 10月～12月	<p>白い部分は、土寄せという作業で盛られた土の中で育ちます。太くて長く、煮込むととろけるようにやわらかく、ぬめりがあるのが特徴です。寒くなるほどあまみが増します。</p>	

	項目	内容
加賀野菜	【品目】 加賀つるまめ 	<p>東アジアやインドが原産で、正式な和名は「フジマメ」です。平安時代の字典にその名が登場していますが、日本でいつから栽培されていたかはわかりません。栽培がさかんなのは北陸、関西、中京で、そのほかの地域ではあまり食べられていません。</p> <p>金沢では「つるまめ」と呼ばれ、富樫地区が主な産地です。金沢での栽培は昭和 20 年代頃からと思われます。</p> <p>独特で豊かな香りを持ち、肉厚なさやが特徴です。豆が大きくなるうちに収穫し、豆ではなく“さや”を味わいます。</p>
	【主な産地】 富樫地区、額地区	
	【出荷時期】 7月～10月	
	【品目】 二塚からしな 	<p>金沢では二塚地区を中心に、大正から昭和 30 年代後半まで、稲刈り後の田んぼに自分が食べる分としてや、田植え前にすき込む自然の肥料として栽培されていました。その後、稲作の機械化や化学肥料の普及等により、栽培が途絶えてしまいましたが、辛みと独特の香りをなつかしむ声があがり、平成 9 年に復活しました。</p> <p>ワサビに似たピリリとした辛みと、ツンと鼻をつくにおいと味わいが特徴です。加熱の仕方によって辛みが消えてしまうこともあるので、調理にはコツが必要です。</p>
	【主な産地】 二塚地区	
	【出荷時期】 11月～3月	
	【品目】 赤ずいき 	<p>「ずいき」は里いもの茎のことです。江戸時代より前には栽培されていたとされ、金沢では明治に入ってから広く栽培されるようになりました。</p> <p>昔の赤ずいきは、直径 15cm ほどある巨大なものでしたが、今の赤ずいきは八つ頭という別の品種のもので、現在では、主に中山間地域で栽培されています。</p> <p>ぬるりとしていて、シャキシャキとした食感が特徴です。アクが強いので料理の際は下ごしらえが必要です。</p>
	【主な産地】 金浦地区、三谷地区	
	【出荷時期】 7月～9月	
	【品目】 くわい 	<p>金沢でくわいが栽培されたのは、5代藩主前田綱紀の頃と言われています。</p> <p>大正時代からよく食べられるようになり、栽培も増えました。当時、小坂、御所の生産農家は 30 軒以上ありましたが、収穫はすべて手作業のため大量生産ができず、湿田での重労働のため生産者は減り、現在はわずかとなりました。</p> <p>ゆり根に似たほろ苦さと、ほくほくした食感が特徴です。またその形から「芽が出る」縁起の良い食材とされています。</p>
	【主な産地】 小坂地区	
	【出荷時期】 12月	

項目		内容
加賀野菜	【品目】 金沢春菊 	原産地は地中海の沿岸で、古くからヨーロッパで、花の観賞用として栽培されていました。金沢での栽培は、農業の育成に力を入れた5代藩主前田綱紀の時代からと言われています。1707年に加賀藩の十村※が書いた書物に「つまじろ」という言葉が載っています。金沢では春菊のことを古くから、つまじろと呼んでいます。
	【主な産地】 小坂地区、東浅川地区、河北潟	かつての産地は三馬地区でしたが、今は市内各地で作られています。
	【出荷時期】 10月～4月	金沢春菊は一般的な春菊と違い、独特なクセがなく、やさしい香りとやわらかな食感、そして肉厚な葉が特徴です。 ※10 または数十の村をとりまとめる有力な農民

<加賀野菜産地位置図>



【加賀野菜（15品目）】

No	画像	名称	産地	出荷時期
1		さつまいも	粟五地区、大野地区、大徳地区	8月～5月
2		加賀れんこん	小坂地区、河北潟	8月～5月
3		たけのこ	内川地区、富樫地区、金城地区、額地区	4月～5月
4		加賀太きゅうり	安原地区	4月～11月
5		金時草	湯涌地区、安原地区	周年出荷（露地栽培とハウス栽培あり）
6		ヘタ紫なす	崎浦地区	7月～10月
7		源助だいこん	安原地区、粟五地区	10月～2月
8		金沢せり	諸江地区	12月～4月

No	画像	名称	産地	出荷時期
9		打本赤皮甘栗 かぼちゃ	安原地区	6月～8月
10		金沢一本太ねぎ	金城地区、富樫地区	10月～12月
11		加賀つるまめ	富樫地区、額地区	7月～10月
12		二塚からしな	二塚地区	11月～3月
13		赤ずいき	金浦地区、三谷地区	7月～9月
14		くわい	小坂地区	12月
15		金沢春菊	小坂地区、東浅川地区、河北潟	10月～4月



出典：庁内資料

2) 加賀野菜の農家戸数と栽培面積

(1) 全体

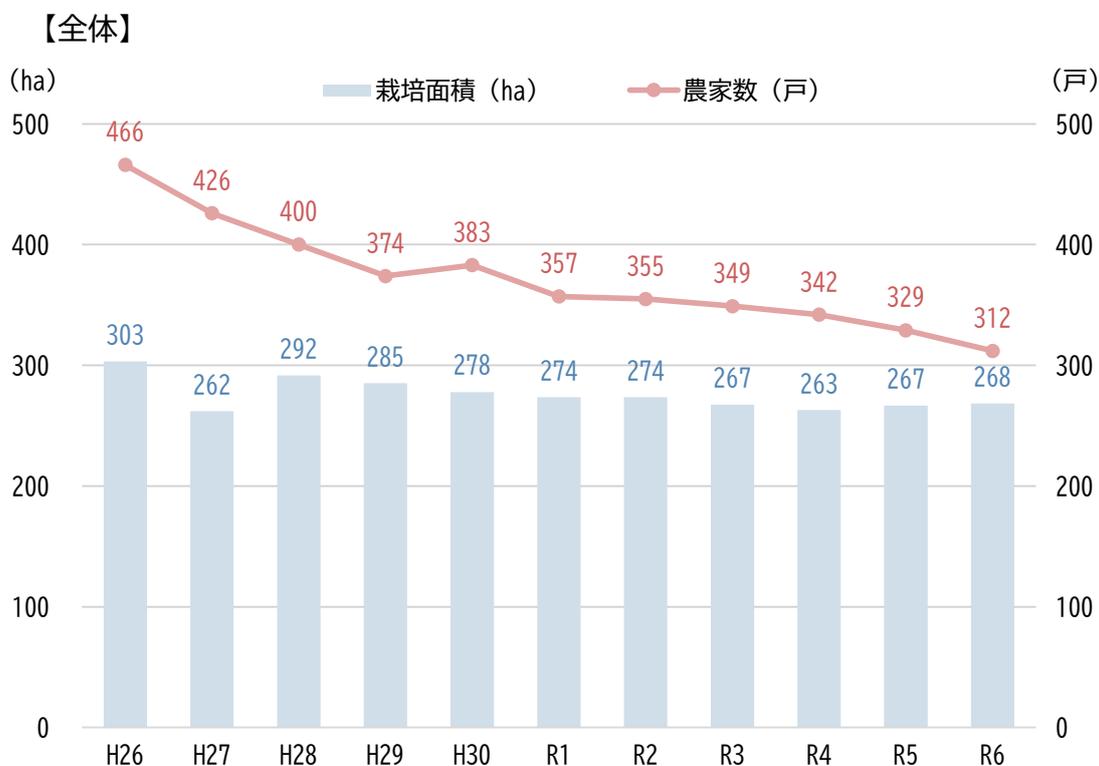
【農家戸数】

- **農家戸数は312戸（令和6年度）で、平成26年度と比べ約30%減少しています。**
- ・平成15年度から平成25年度までは約10%減で推移していましたが、平成26年度以降の減少幅が大きくなっています。
- ・市全体の農家戸数（令和2年度で約2,100戸）のうち、約14%となっています。

【栽培面積】

- **栽培面積は268ha（令和6年度）であり、平成26年度と比べ約10%減少しています。**
- ・平成20年度から平成25年度までは横ばい傾向にありましたが、平成26年度以降は減少に転じています。

<農家戸数の推移と栽培面積（全体）>



出典：庁内資料（以下、同様）

(2) 品目別

<p>【農家戸数】</p> <p>●農家戸数が10戸以下の品目が10品目（ヘタ紫なすは1戸のみ）となっています。</p> <p>・農家戸数は、多くの品目において減少傾向にあり、令和6年度における「金時草」「ヘタ紫なす」「金沢せり」「打木赤皮甘栗かぼちゃ」「金沢一本太ねぎ」「加賀つるまめ」「二塚からしな」「赤ずいき」「くわい」「金沢春菊」は10戸以下となっています。</p>
<p>【栽培面積】</p> <p>●栽培面積は品目によって差が生じています（10ha以上3品目、1ha以下10品目）。</p> <p>・栽培面積は、品目によって大きく異なり、令和6年度では「さつまいも」「加賀れんこん」「たけのこ」は10ha以上、「金時草」「ヘタ紫なす」「金沢せり」「打木赤皮甘栗かぼちゃ」「金沢一本太ねぎ」「加賀つるまめ」「二塚からしな」「赤ずいき」「くわい」「金沢春菊」は1ha以下となっています。</p>

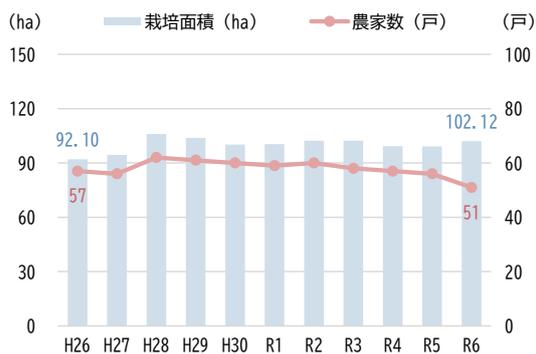
<農家戸数と栽培面積一覧（品目別）>

品目 (認定年度)	農家数			栽培面積		
	認定当初(戸)	R6(戸)	増減(%)	認定当初(ha)	R6(ha)	増減(%)
さつまいも (H9)	77	51	66%	120.00	102.12	85%
加賀れんこん (H9)	84	38	45%	72.00	46.20	64%
たけのこ (H9)	245	143	58%	206.00	110.00	53%
加賀太きゅうり (H9)	13	14	108%	3.07	3.17	103%
金時草 (H9)	30	6	20%	3.50	0.47	13%
ヘタ紫なす (H9)	12	1	8%	0.67	0.07	10%
源助だいこん (H9)	12	20	167%	0.55	4.14	753%
金沢せり (H9)	12	3	25%	0.80	0.15	19%
打木赤皮甘栗かぼちゃ (H9)	1	3	300%	0.15	0.77	513%
金沢一本太ねぎ (H9)	3	7	233%	0.05	0.24	480%
加賀つるまめ (H10)	18	5	28%	4.40	0.14	3%
二塚からしな (H10)	4	7	175%	0.06	0.13	217%
赤ずいき (H14)	9	3	33%	0.20	0.22	110%
くわい (H14)	6	3	50%	0.19	0.08	42%
金沢春菊 (H15)	1	8	800%	0.20	0.42	210%

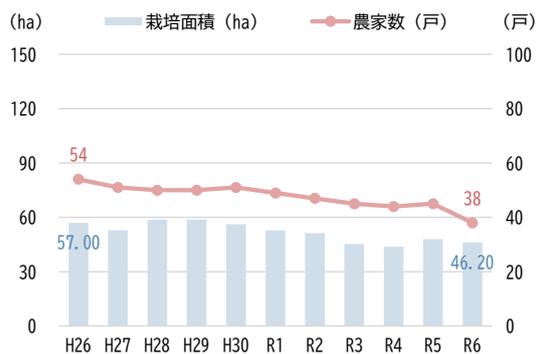
※赤着色は農家戸数・栽培面積の増減における上位3品目を示しています
 ※青着色は農家戸数・栽培面積の増減における下位3品目を示しています

<品目別農家戸数と栽培面積の推移>

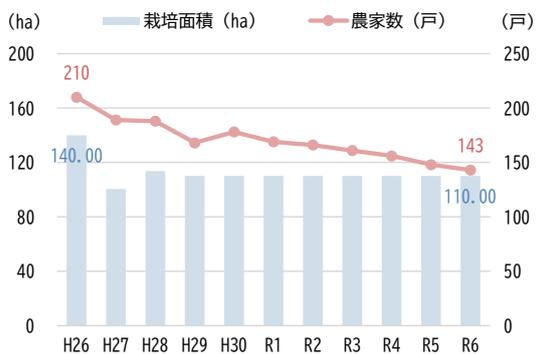
【さつまいも】



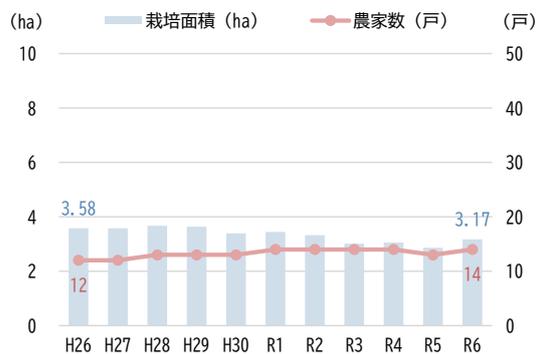
【加賀れんこん】



【たけのこ】



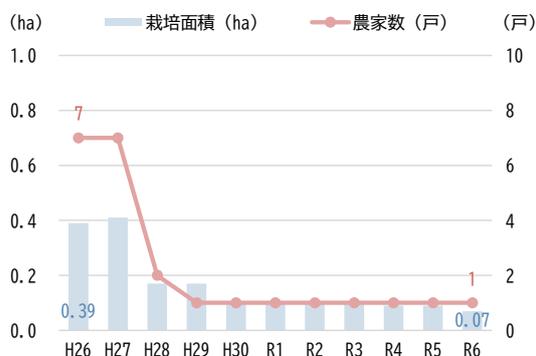
【加賀太きゅうり】



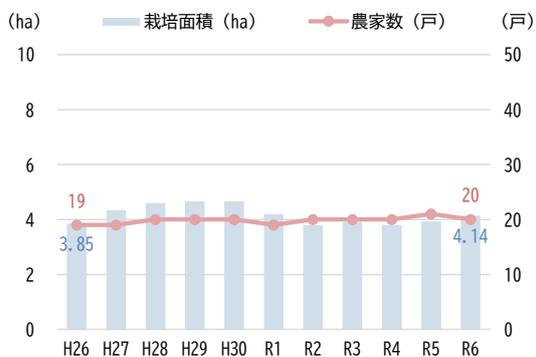
【金時草】



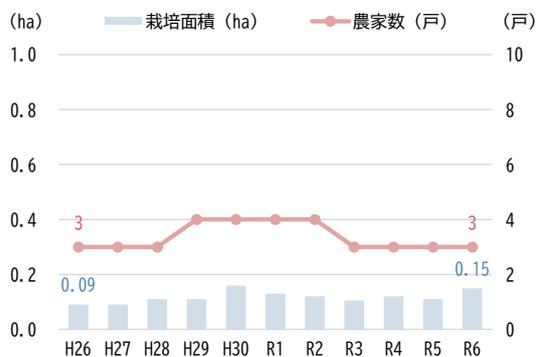
【ハタ紫なす】



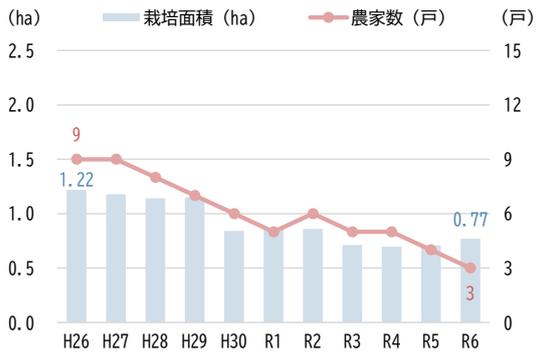
【源助だいこん】



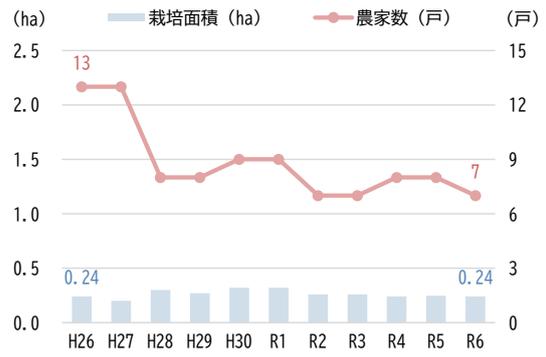
【金沢せり】



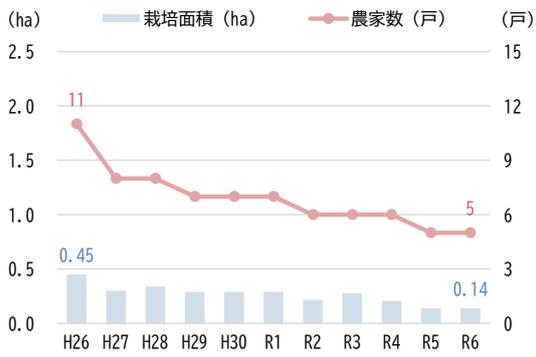
【打木赤皮甘栗かぼちゃ】



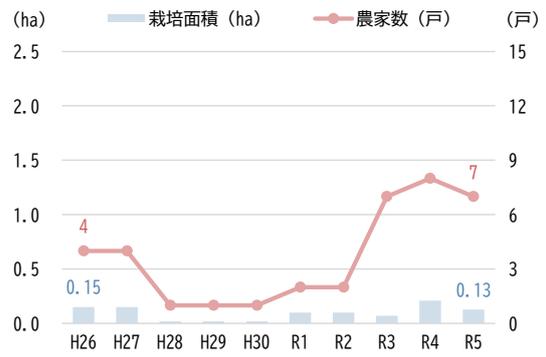
【金沢一本太ねぎ】



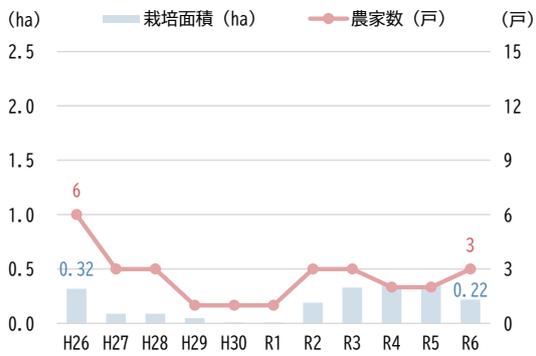
【加賀つるまめ】



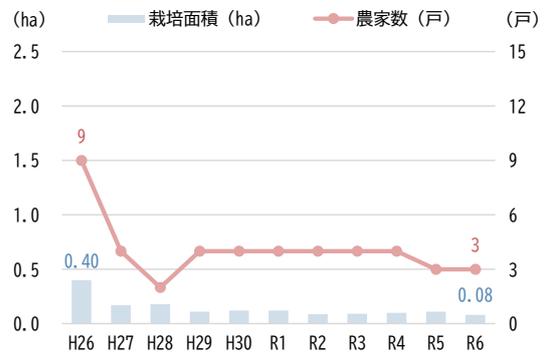
【二塚からしな】



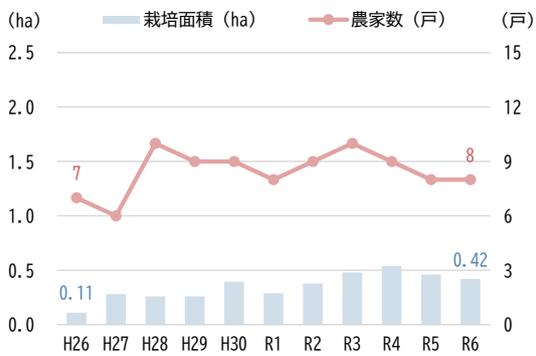
【赤ずいき】



【くわい】



【金沢春菊】



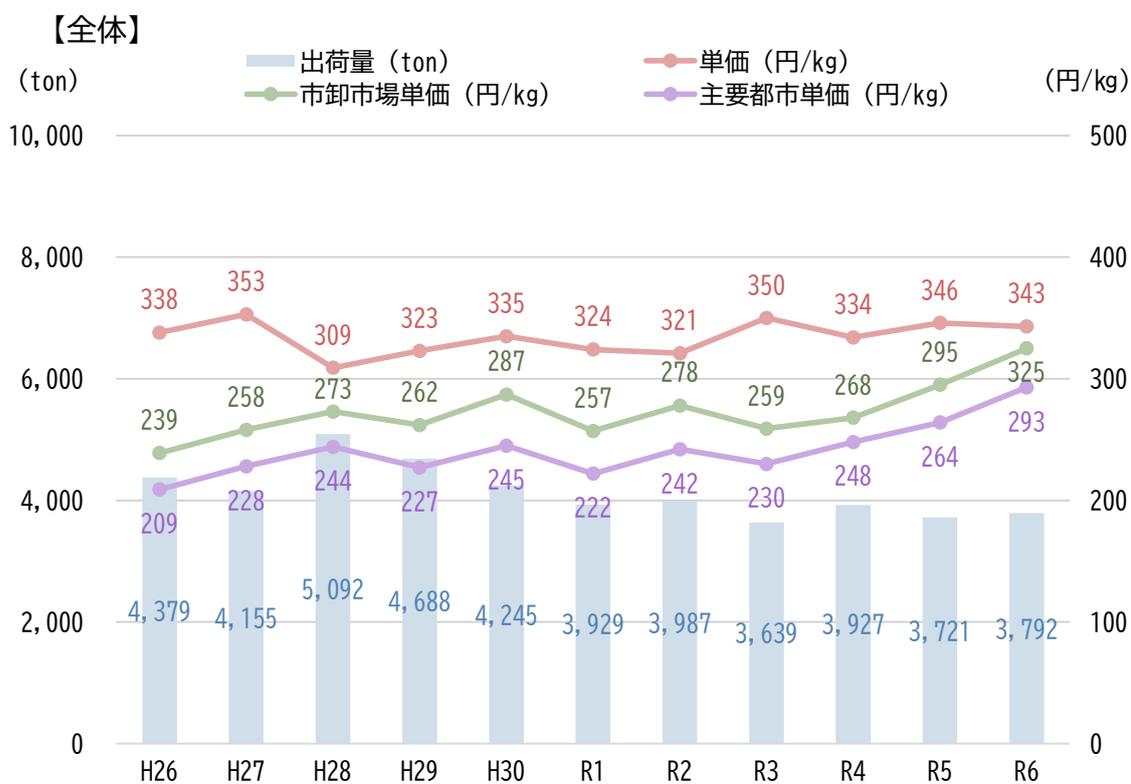
3) 加賀野菜の出荷量と販売単価

(1) 全体

【出荷量】
●出荷量は 3,792t（令和 6 年度）で、平成 26 年度と比べ約 13%減少しています。
 ・概ね 3,600t から 4,600t の間で推移しています。
 ・年によって変動していますが、減少傾向にあります。

【販売単価】
●販売単価は 343 円（令和 6 年度）で、平成 26 年度から横ばいで推移しています。
 ・販売単価は、年によって変動が生じているものの、令和 6 年度における販売単価は 343 円となっており、横ばいで推移しています。

<出荷量と販売単価の推移（全体）>



※単価は加賀野菜の販売単価、市卸市場単価は金沢市中央卸売市場における加賀野菜類似品目の平均販売単価、主要都市単価は主要都市における加賀野菜類似品目の平均販売単価を示しています。（以下、同様）

出典（出荷量、単価）：庁内資料

出典（市卸市場単価）：金沢市中央卸売市場統計

出典（主要都市単価）：農林水産省青果物卸売市場調査、独立行政法人農畜産業振興機構野菜情報総合把握システム

（以下、同様）

(2) 品目別

【出荷量】

- **出荷量が半減した品目は6品目、2倍以上に増加した品目は4品目となっています。**
- ・ 出荷量は、栽培面積に応じ品目によって大きく異なり、令和6年度における「さつまいも」「加賀れんこん」「加賀太きゅうり」「源助だいこん」は100t以上ありますが、「金時草」「ヘタ紫なす」「金沢せり」「金沢一本太ねぎ」「加賀つるまめ」「二塚からしな」「赤ずいき」「くわい」「金沢春菊」は10t以下となっています。
- ・ 認定当初より出荷量が半分以下になった品目は「金時草」「ヘタ紫なす」「金沢せり」「加賀つるまめ」「赤ずいき」「くわい」の6品目、2倍以上増の品目は「源助だいこん」「打木赤皮甘栗かぼちゃ」「金沢一本太ねぎ」「金沢春菊」の4品目となっています。

【販売単価】

- **販売単価において、類似品目に比べ、優位性の高い品目が存在します。**
- ・ 販売単価は毎年変動しており、類似品目の単価と比べると、単価の優位性は品目により異なっています。

※「たけのこ」については、表年と裏年で出荷量に差が生じるため、コメントに記載していません。

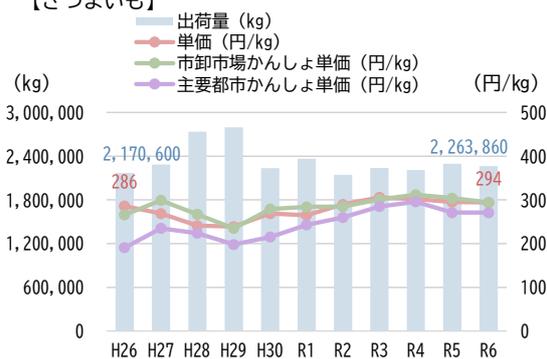
<出荷量と販売単価一覧（品目別）>

品目 (認定年度)	出荷量			販売単価		
	認定当初 (kg)	R6 (kg)	増減 (%)	認定当初 (円/kg)	R6 (円/kg)	増減 (%)
さつまいも (H9)	1,719,105	2,263,860	132%	244	294	120%
加賀れんこん (H9)	726,890	548,235	75%	540	620	115%
たけのこ (H9)	582,038	305,074	52%	273	430	158%
加賀太きゅうり (H9)	340,385	423,275	124%	248	214	86%
金時草 (H9)	60,378	7,149	12%	457	1,962	429%
ヘタ紫なす (H9)	56,271	2,028	4%	427	903	211%
源助だいこん (H9)	21,076	220,154	1045%	133	167	126%
金沢せり (H9)	10,200	1,311	13%	1,956	3,460	177%
打木赤皮甘栗かぼちゃ (H9)	3,300	14,514	440%	230	585	254%
金沢一本太ねぎ (H9)	366	1,584	433%	230	676	294%
加賀つるまめ (H10)	20,104	203	1%	271	1,920	708%
二塚からしな (H10)	88	98	111%	420	1,540	367%
赤ずいき (H14)	8,776	2,020	23%	183	347	190%
くわい (H14)	1,337	346	26%	791	1,186	150%
金沢春菊 (H15)	553	2,192	396%	378	1,424	377%

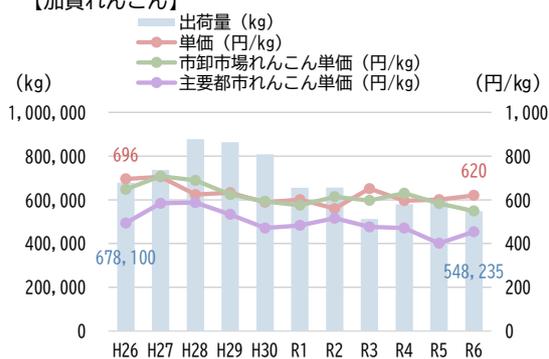
※赤着色は出荷量・販売単価の増減における上位3品目を示しています
 ※青着色は出荷量・販売単価の増減における下位3品目を示しています

<出荷量と販売単価の推移（品目別）>

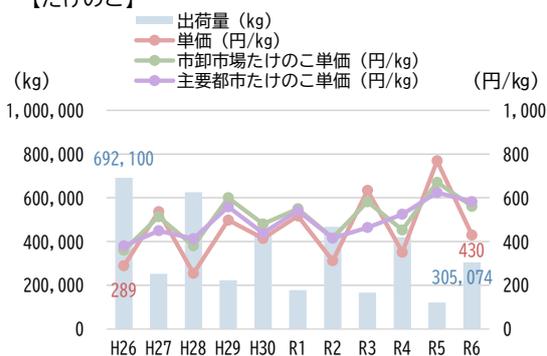
【さつまいも】



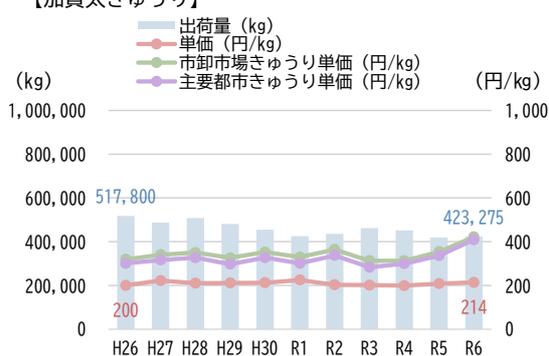
【加賀れんこん】



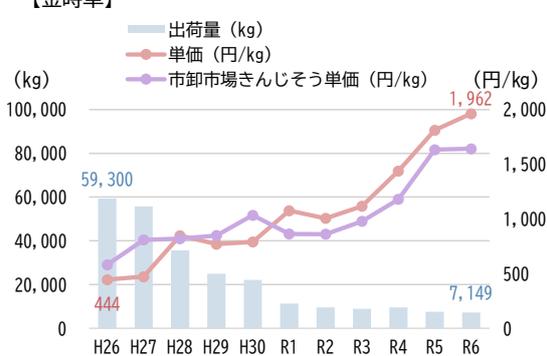
【たけのこ】



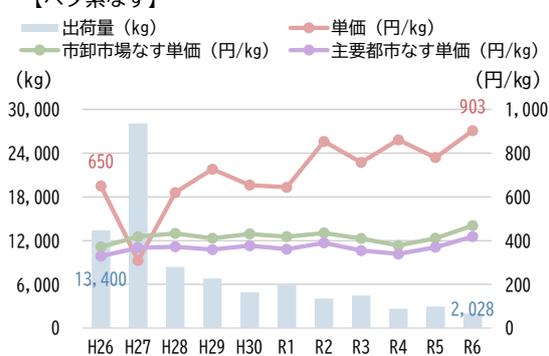
【加賀太きゅうり】



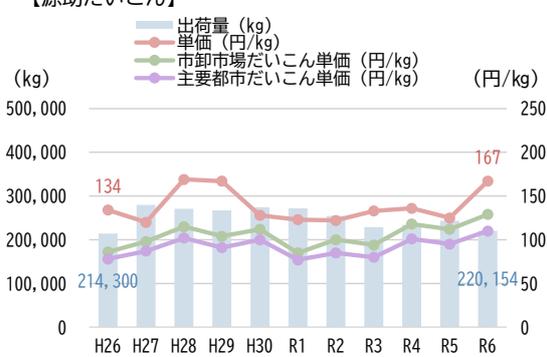
【金時草】



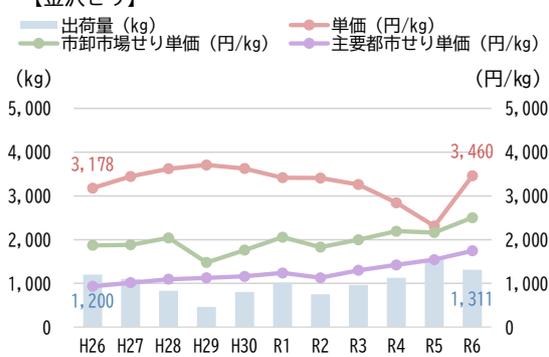
【ヘタ紫なす】



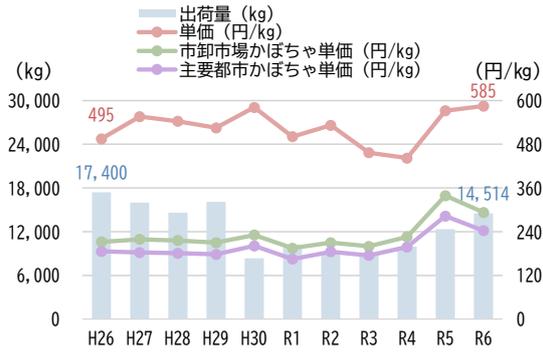
【源助だいこん】



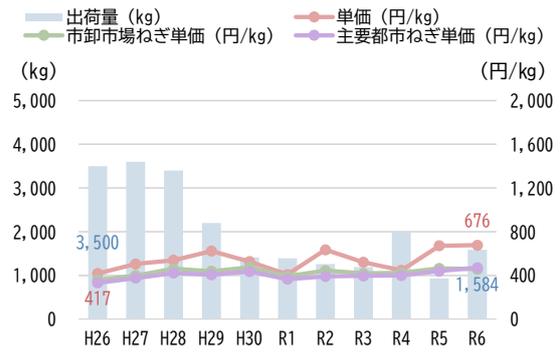
【金沢せり】



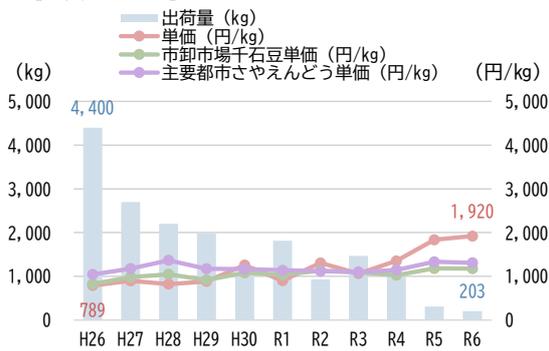
【打木赤皮甘栗かぼちゃ】



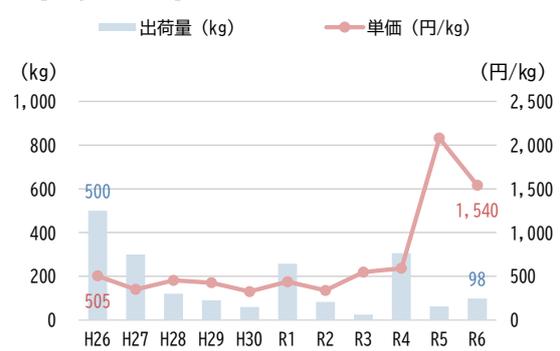
【金沢一本太ねぎ】



【加賀つるまめ】



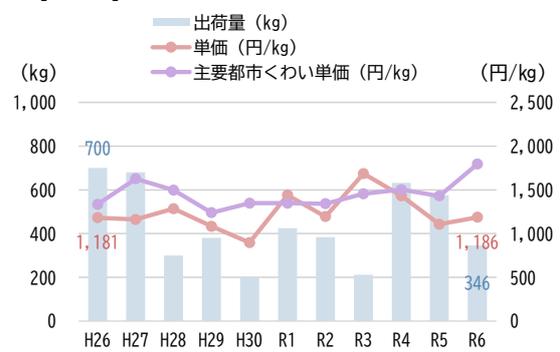
【二塚からしな】



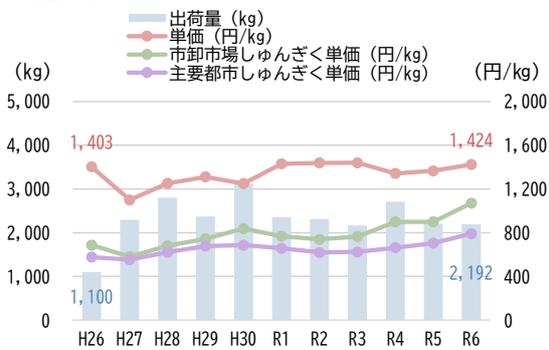
【赤ずいき】



【くわい】



【金沢春菊】



2. 金沢そだち

1) 概要

- ・金沢そだちは、「金沢の風土を活かして生産された優れた農産物を認証することにより、消費者への周知と信頼を高め、金沢産農産物のブランド力の向上につなげ、生産の振興と消費の拡大を図る」ことを目的に、2010年（平成22年）から5品目が認証されています。

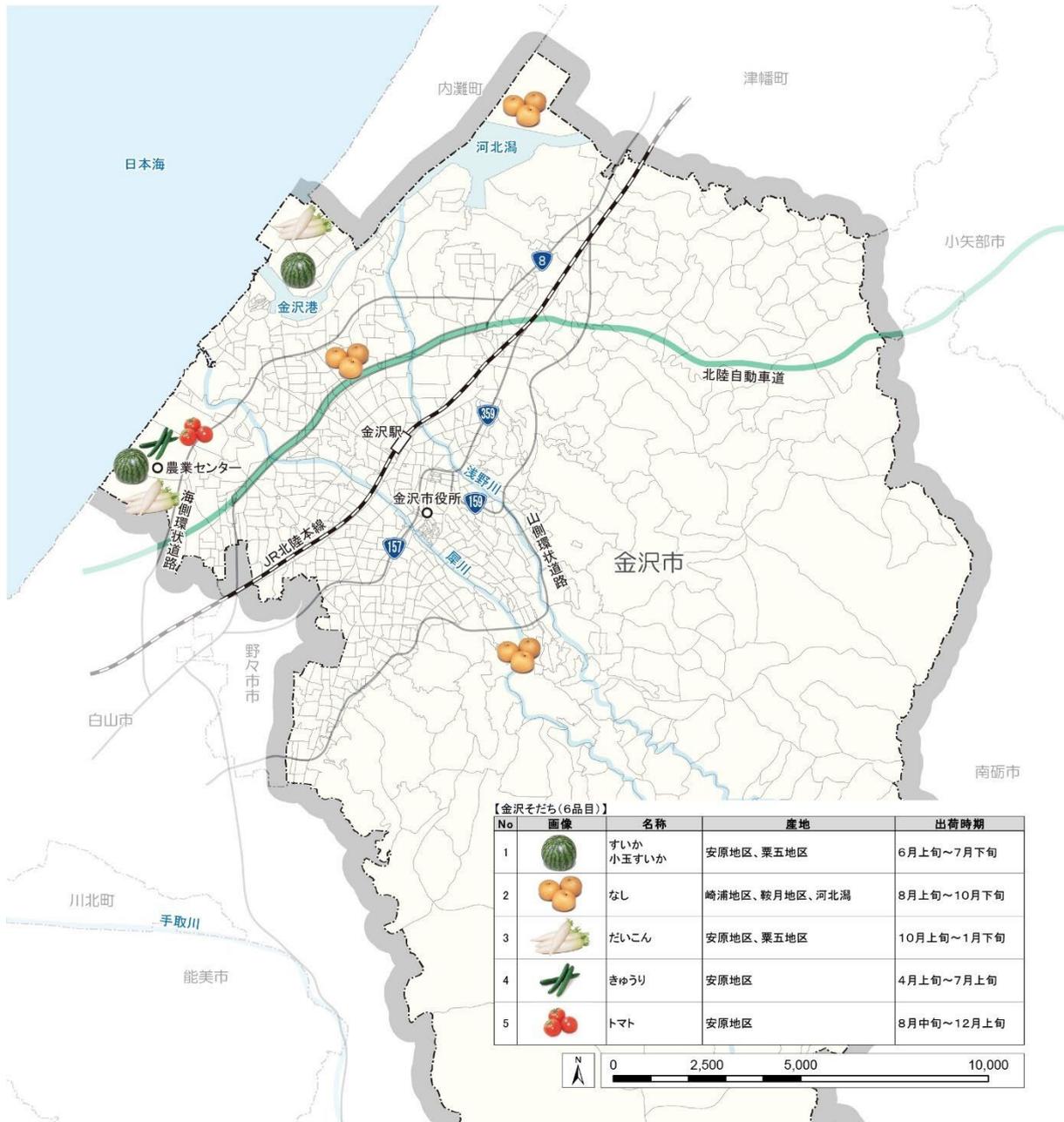
<金沢そだちの概要>

項目	内容	
認証機関	金沢市農産物ブランド協会	
認証条件	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市で生産されている農産物であること。（米を除き野菜、果樹及び花とする。） ・「地域性」「歴史性」など、金沢の風土を活かした優れた特長及び品質を有するもの。ただし、加賀野菜として認定されている品目を除く。 ・現在、ある程度の生産量等を有し、今後とも生産・販売の拡大を進めていくもの。または今後、ある程度の生産量等が見込め、生産・販売の拡大を進めていくもの。 	
金沢そだち	【品目】 すいか・小玉すいか 	◆栽培の特徴 砂丘地を中心にスプリンクラーかん水が普及し、昭和40年代にかけて産地化が進みました。栽培方法もビニールハウスや大型トンネル栽培と栽培の前進化が図られました。出荷方法は集出荷場での共同選果により、地元市場をはじめ、関西、中京の市場へ6月上旬から7月末まで出荷されています。
	【産地】 安原地区、粟五地区	
	【出荷時期】 6月上旬～7月下旬	
	【品目】 なし 	◆栽培の特徴 市街地に近い崎浦地区、浅川地区、鞍月地区等で栽培されています。18世紀末の登場以来、全国的に栽培されており、品種も多数ありますが、主に果皮の赤茶色の強い三水（新水、幸水、豊水）と言われている赤梨系の品種を中心に、地元市場をはじめ関西市場への出荷や直売が行われています。
【産地】 崎浦地区、鞍月地区、河北潟		
【出荷時期】 8月上旬～10月下旬		

出典：金沢市ホームページ（以下、同様）

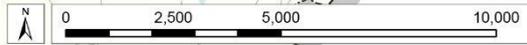
項目		内容
金沢そだち	【品目】 だいこん 	◆栽培の特徴 砂丘地を中心に、すいかの後作として産地化が進みました。当初は打木源助だいこんが主流でしたが、昭和52年頃より、形状の揃いが良く、収量性も高く、病気にも強い総太系のだいこんに変わり、現在に至っています。出荷は集出荷場に持ち寄り、地元市場をはじめ、関西、中京の市場へ出荷されています。
	【産地】 安原地区、栗五地区	
	【出荷時期】 10月上旬～1月下旬	
	【品目】 きゅうり 	◆栽培の特徴 栽培の歴史は、藩政時代からと非常に古く、砂丘地の温室やハウスでは4月上旬から出荷の半促成栽培が行なわれ、県内市場へ出荷されています。
	【産地】 安原地区	
	【出荷時期】 4月上旬～7月上旬	
	【品目】 トマト 	◆栽培の特徴 栽培の歴史は、大正時代が走り、戦後の需要増加とともに栽培が伸びました。栽培方法も6月下旬から出荷の露地夏秋栽培から8月中旬から出荷のハウス抑制栽培へと変わってきました。ハウス抑制栽培では県内市場をはじめ、関西市場へも出荷されています。
	【産地】 安原地区	
	【出荷時期】 8月中旬～12月上旬	

<金沢そだち産地位置図>



【金沢そだち(6品目)】

No	画像	名称	産地	出荷時期
1		すいか 小玉すいか	安原地区、粟五地区	6月上旬～7月下旬
2		なし	崎浦地区、鞍月地区、河北潟	8月上旬～10月下旬
3		だいこん	安原地区、粟五地区	10月上旬～1月下旬
4		きゅうり	安原地区	4月上旬～7月上旬
5		トマト	安原地区	8月中旬～12月上旬



出典：庁内資料

2) 金沢そだちの農家戸数と栽培面積

(1) 全体

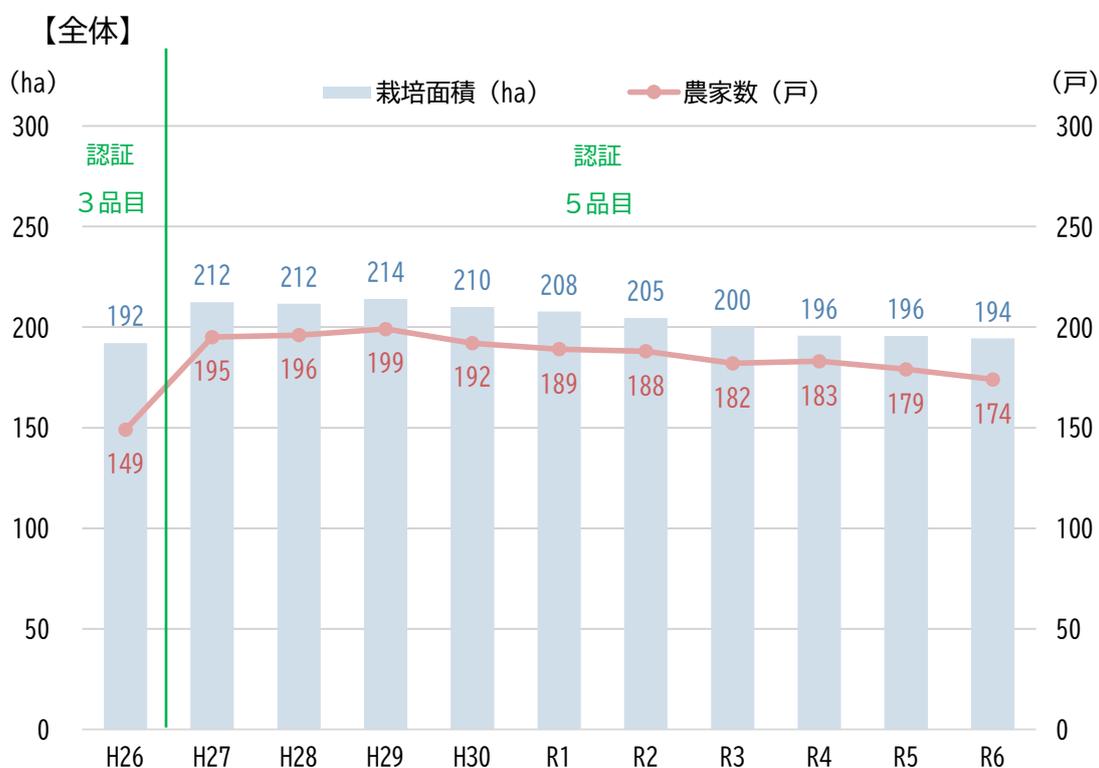
【農家戸数】

- 農家戸数は174戸（令和6年度）であり、平成27年度から緩やかに減少しています。
- ・平成27年度（195戸）と比較すると、令和6年度は10%減少しており、緩やかな減少傾向が続いています。

【栽培面積】

- 栽培面積は194ha（令和6年度）であり、平成27年度から緩やかに減少しています。
- ・平成27年度（212ha）と比較すると、令和6年度は8%減少しており、緩やかな減少傾向が続いています。

<農家戸数と栽培面積の推移（全体）>



出典：庁内資料（以下、同様）

(2) 品目別

【農家戸数】

●農家戸数は、10年前から横ばいまたは減少傾向にあります。

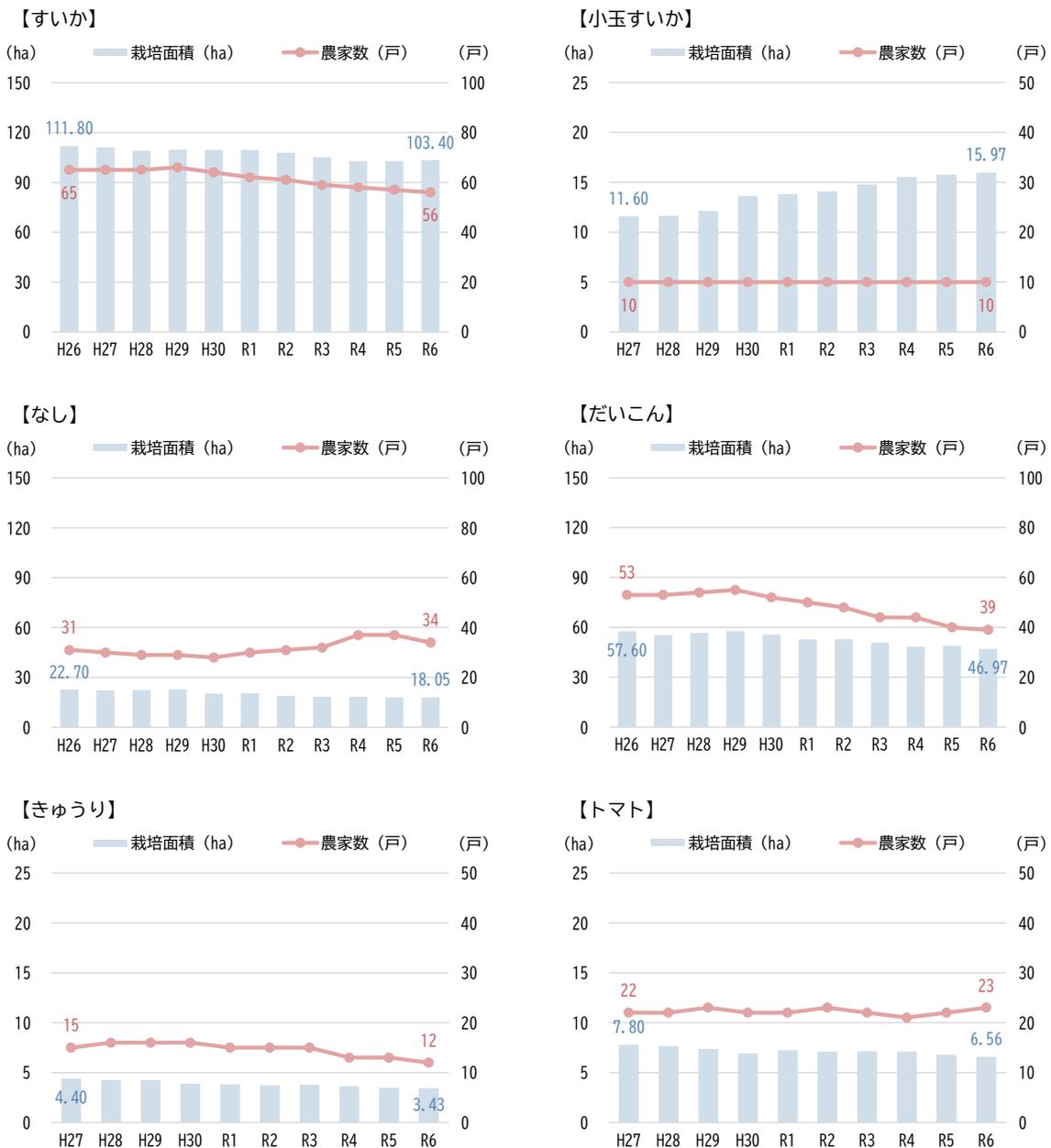
- ・10年前と比較すると、令和6年度は、すいか（-9戸）、だいこん（-14戸）、きゅうり（-3戸）と、緩やかな減少傾向が続いています。

【栽培面積】

●栽培面積は、10年前から概ね減少傾向にあります。

- ・ほとんどの品目で緩やかな減少傾向となっていますが、小玉すいか（137%、+4.37ha）は増加しています。

<農家戸数と栽培面積の推移（品目別）>



3) 金沢そだちの出荷量と販売単価

(1) 全体

【出荷量】

●出荷量は10,641t（令和6年度）で、平成27年度と比べ約16%減少しています。

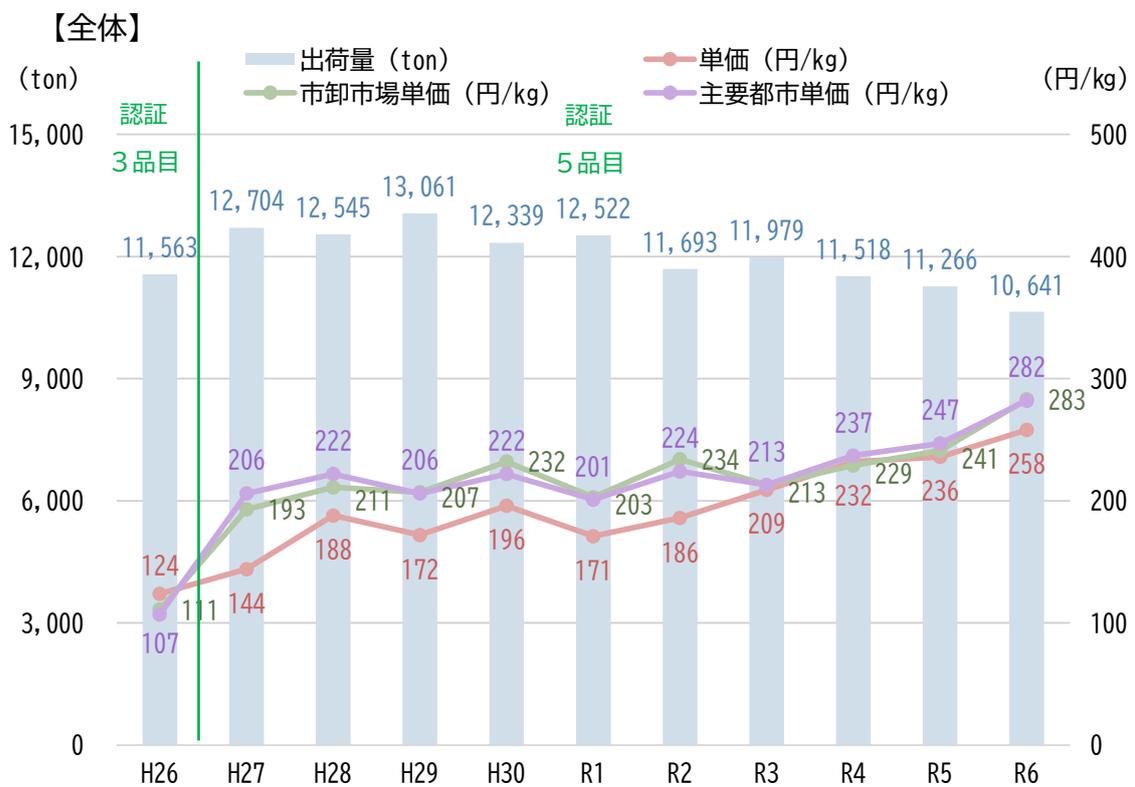
・年によって変動はありますが、平成27年度から減少傾向となっています。

【販売単価】

●販売単価は258円（令和6年度）で、平成27年度と比べ79%上昇しています。

・令和元年から販売単価が上昇しており、平成27年度（144円）と比較して79%増となっています。

<出荷量と販売単価の推移（全体）>



※単価は金沢そだちの販売単価、市卸資料単価は金沢市中央卸売市場における金沢そだち類似品目の平均販売単価、主要都市単価は主要都市における金沢そだち類似品目の平均販売単価を示しています。（以下、同様）

出典（出荷量、単価）：庁内資料

出典（市卸市場単価）：金沢市中央卸売市場統計

出典（主要都市単価）：農林水産省青果物卸売市場調査

(2) 品目別

【出荷量】

●出荷量は、減少傾向にあります。

- ・出荷量は、減少傾向にあります。なしとトマトは平成 26 年度から約 40%減少しています。

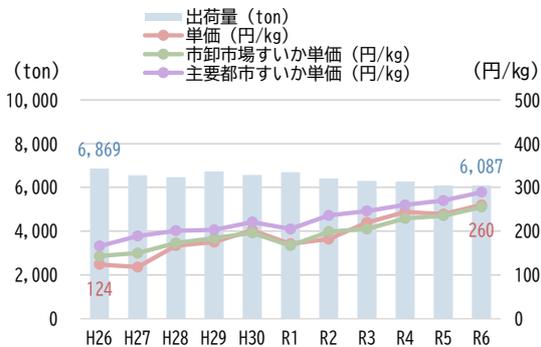
【販売単価】

●販売単価は、上昇傾向にあります。

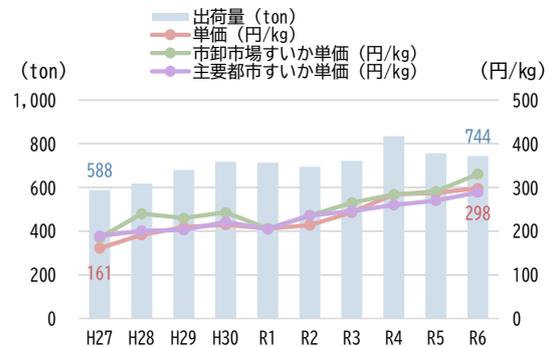
- ・販売単価は上昇傾向にあります。特にすいかにおいて平成 26 年度と比較して、ほぼ倍となっています。

<出荷量と販売単価の推移（品目別）>

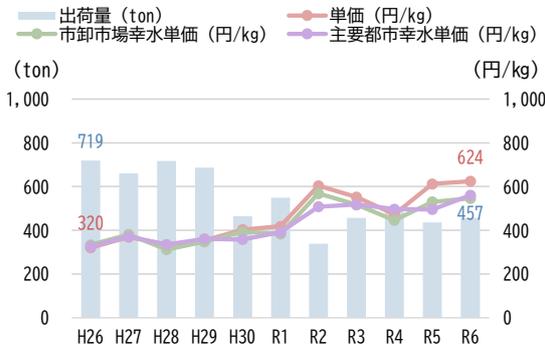
【すいか】



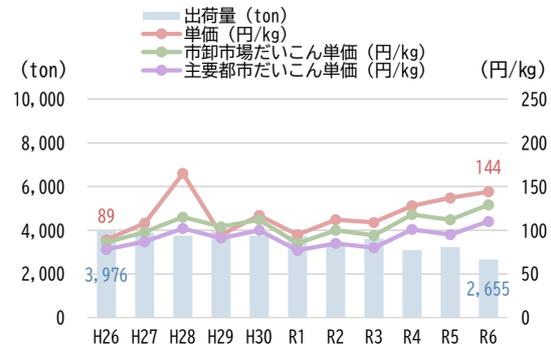
【小玉すいか】



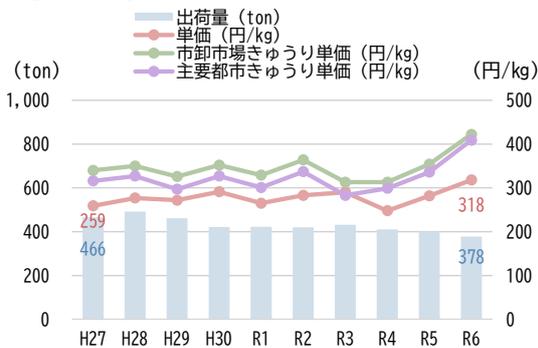
【なし】



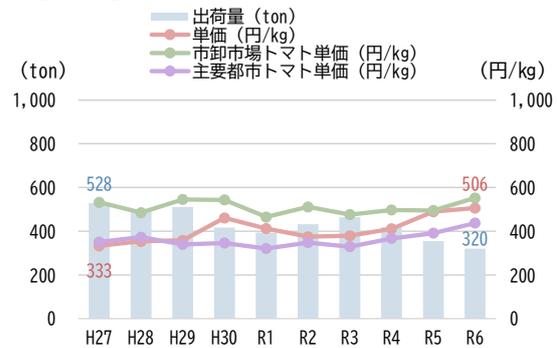
【だいこん】



【きゅうり】



【トマト】



資料2. 各種団体・関係者の意向調査

1. 生産者の意向調査

調査対象：加賀野菜及び金沢そだちの生産者組織（生産部会）を通じ、金沢ブランド農産物の生産農家及び生産者組織に対しアンケート調査を実施

調査時期：令和7年7月4日（金）～8月7日（木）

回収率：【加賀野菜】

生産者組織：配布数 17、回収数 12、回収率 71%

生産者：配布 289、回収数 201、回収率 70%

【金沢そだち】

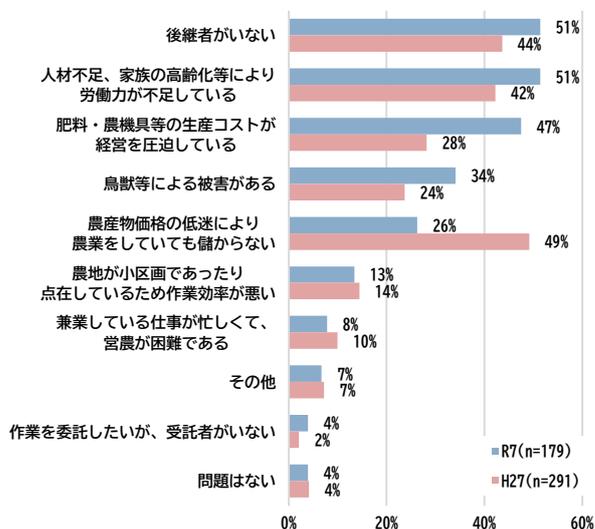
生産者組織：配布数 9、回収数 6、回収率 67%

生産者：配布 181、回収数 105、回収率 58%

1) 加賀野菜生産者の意見（各農家の集計）

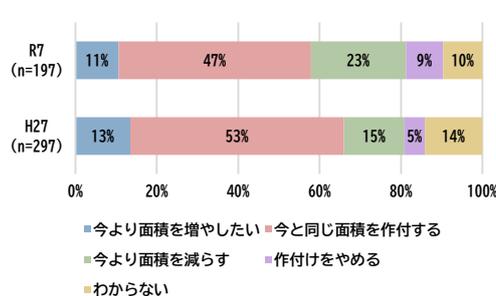
(1) 栽培の問題点

- ・「後継者がいない」「労働力が不足している」「生産コストが経営を圧迫している」が約半数を占めるほか、「鳥獣等による被害がある」等も問題となっています。



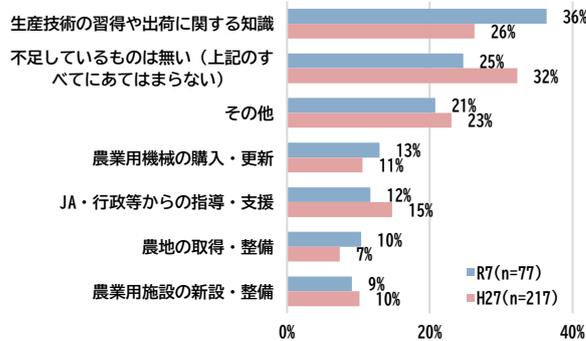
(2) 今後の作付に対する意向

- ・「今と同じ面積を作付けする」が47%を占める一方、「今より面積を減らす」が23%、「今より面積を増やしたい」が11%を占めています。



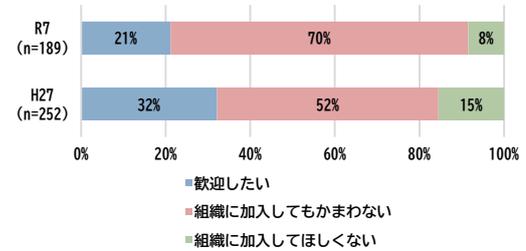
(3) 後継者の栽培開始・継続に必要な取組

- ・「生産技術の習得や出荷の知識」が最も多い一方、「不足しているものは無い(上記のすべてにあてはまらない)」とする意見もみられます。



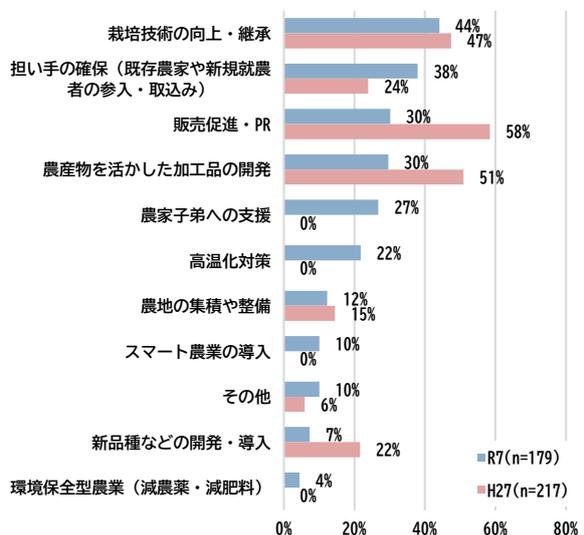
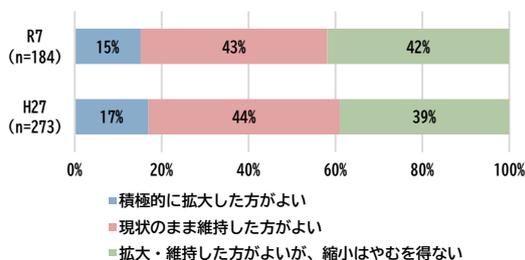
(4) 新規加入者の受け入れ

- ・組織に「加入してもかまわない」が70%、「歓迎したい」が21%を占める一方、「加入してほしくない」との意見もみられます。



(5) 産地に対する意向

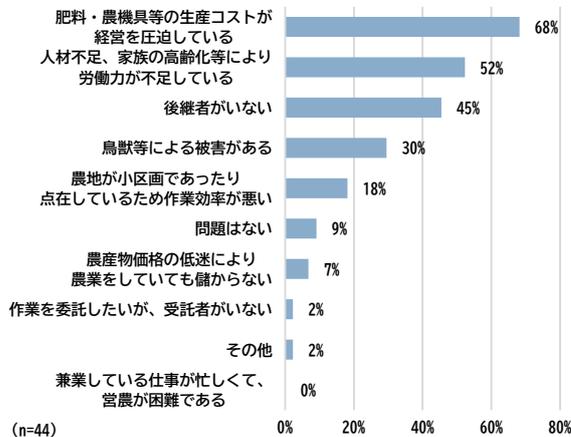
- ・「現状のまま維持した方がよい」が43%を占める一方、「縮小はやむを得ない」が42%を占めています。
- ・産地の拡大、維持に必要な取組として、「栽培技術の向上・継承」「担い手の確保」が約4割を占めています。



2) 金沢そだち生産者の意見（各農家の集計）

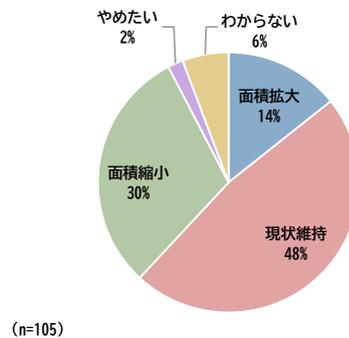
(1) 栽培の問題点

- ・「生産コストが経営を圧迫している」が多くを占めるほか、「労働力が不足している」「後継者がいない」等が問題となっています。



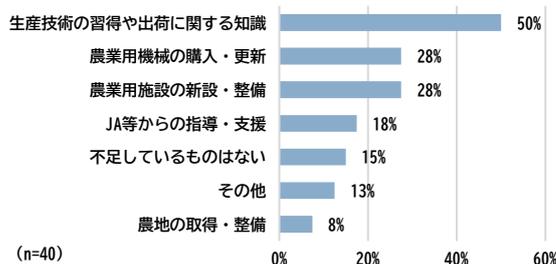
(2) 今後の作付に対する意向

- ・「現状維持」が48%を占める一方、「面積縮小」が30%、「面積拡大」が14%を占めています。



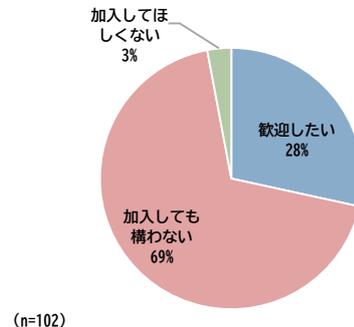
(3) 後継者の栽培開始・継続に必要な取組

- ・「生産技術の習得や出荷に関する知識」が最も多くなっています。



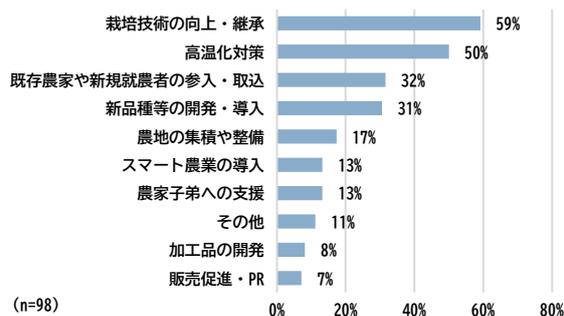
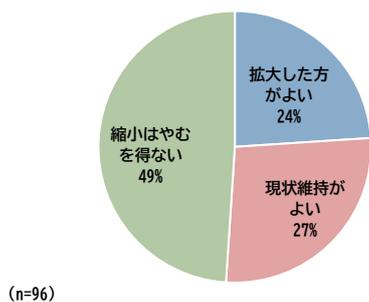
(4) 新規加入者の受け入れ

- ・組織に「加入しても構わない」が69%、「歓迎したい」が28%を占める一方、「加入してほしくない」との意見もみられます。



(5) 産地に対する意向

- ・「縮小はやむを得ない」が49%を占める一方、「現状維持がよい」が27%を占めています。
- ・産地の拡大、維持に必要な取組として、「栽培技術の向上・継承」「高温化対策」が半数以上を占めています。



3) 加賀野菜の課題と今後必要な対策（各部会の集計）

（数字：回答した部会数、n=12）

産地の現状と課題	生産	<ul style="list-style-type: none"> ○担い手・後継者の不足による生産量の減少：9 ○高齢化による生産量の減少：7 ○鳥獣等による被害：3 ○市街化等による栽培面積の減少：2 ○新たな栽培方法の検討が必要：2 ○優良種苗の選抜・保存・供給方法等の検討が必要：2 ○問題はない：2 ○生産拡大したいが、農地がない：1
	出荷・販売	<ul style="list-style-type: none"> ○販売コストの増大（他品目に比べて）：6 ○一時的な需要に対する生産不足：6 ○農産物価格の低迷：5 ○販路不足：4 ○個人選果による規格のバラつき：4 ○上物（秀・優）の確保が困難：4 ○既存販路への出荷量の調整：3 ○出荷施設の整備：2
今後必要な対策		<ul style="list-style-type: none"> ○栽培技術の向上・継承：9 ○既存農家や新規就農者の参入・取込み：8 ○販売促進・PR：4 ○農業機械・ハウス導入への支援：3 ○農地の集積や整備：2 ○農産物を活かした加工品の開発：2 ○JA等によるハウスのリース事業：1

4) 金沢そだちの課題と今後必要な対策（各部会の集計）

（数字：回答した部会数、n=6）

産地の現状と課題	生産	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化による生産量の減少：6 ○担い手・後継者の不足による生産量の減少：6 ○新たな栽培方法の検討が必要：3 ○市街化等による栽培面積の減少：2 ○生産拡大したいが、機械や施設が不足：2 ○鳥獣等による被害：2 ○生産拡大したいが、農地がない：1 ○優良種苗の選抜・保存・供給方法等の検討が必要：1
	出荷・販売	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷施設の整備：4 ○販売コストの増大（他品目に比べて）：2 ○農産物価格の低迷：2 ○上物（秀・優）の確保が困難：2 ○既存販路への出荷量の調整：1 ○個人選果による規格のバラつき：1 ○一時的な需要に対する生産不足：1
今後必要な対策		<ul style="list-style-type: none"> ○既存農家や新規就農者の参入・取込み：4 ○新技術・新品種等の開発・導入：3 ○農業機械・ハウス導入への支援：3 ○栽培技術の向上・継承：2 ○販売促進・PR：2 ○JA等によるハウスのリース事業：2

参考) 加賀野菜及び金沢そだちの各部会で行っている取組 (部会代表者の意見)

		生産者人数(人)	生産に関する取組																									
			作付面積の把握	制限	作付面積の調整・	作型の調整・統一	出荷規格の統一	優良種苗の選抜	供給	優良種苗の保存・	使用する生産資材	の統一	とりまとめ	生産資材購入の	利用・管理	機械・施設の共同	農作業等の共同	実施	講習会(勉強会)の開	催	圃場巡回	試験圃の設置	先遣地等の視察	栽培履歴記帳の	義務化	GAP	エコ農業	
加賀野菜	さつまいも	五郎島さつまいも部会	34	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	加賀れんこん	加賀れんこん部会	38	●				●						●	●			●					●	●	●	●	●	●
	たけのこ	筍部会	144				●	●					●	●											●	●		
	ヘタ紫なす	丸茄子部会	1	●				●	●	●								●						●	●			
	金沢せり	金沢芹部会	3	●		●		●	●	●										●	●					●		
	金時草	砂丘地金時草部会	3	●		●		●			●	●													●			
	金時草	金時草共販部会	1	●		●		●			●												●		●			
	加賀つまめ	つまめ部会	5	●				●						●											●			
	打木赤皮甘栗かぼちゃ	打木赤皮甘栗かぼちゃ部会	3	●		●		●	●	●								●	●	●					●			
	源助だいこん	大根部会源助大根部	20	●	●	●		●	●	●	●	●	●				●			●	●				●	●	●	●
	金沢一本太ねぎ	軟弱野菜部会	6	●				●													●	●						
	二塚からしな	野菜生産部会	7	●		●		●						●								●	●					
	金沢そだち	すいか	西瓜部会(南部)	17	●	●	●		●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
すいか		西瓜部会(北部)	19	●		●		●				●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
なし		果樹部会	7	●							●	●	●								●	●		●	●			
だいこん		大根部会(北部)	9	●				●	●												●	●	●	●	●	●	●	●
トマト		トマト部会	23	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
きゅうり		胡瓜部会	13	●				●	●				●	●							●	●		●	●			

		生産者人数(人)	出荷・販売に関する取組							販売促進に関する取組																		
			品質・規格の基準設定	共同検査	共同選果	出荷先の決定	共同出荷	出荷量の調整	収穫祭や農身体験等の実施	首都圏等、県外への販売セーリングス	生産者参加による店頭	産加工品開発・6次	産加工品	設計、SNSやホームページ等	伝テレレビ・CM等での宣													
加賀野菜	さつまいも	五郎島さつまいも部会	34	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	加賀れんこん	加賀れんこん部会	38	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	たけのこ	筍部会	144	●	●			●	●					●														●
	ヘタ紫なす	丸茄子部会	1	●				●	●																			
	金沢せり	金沢芹部会	3		●							●															●	
	金時草	砂丘地金時草部会	3	●				●	●	●	●																	
	金時草	金時草共販部会	1	●				●																				
	加賀つまめ	つまめ部会	5	●	●					●																		
	打木赤皮甘栗かぼちゃ	打木赤皮甘栗かぼちゃ部会	3	●	●	●		●	●	●	●																	
	源助だいこん	大根部会源助大根部	20	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	金沢一本太ねぎ	軟弱野菜部会	6						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	二塚からしな	野菜生産部会	7	●				●													●	●						
	金沢そだち	すいか	西瓜部会(南部)	17	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
すいか		西瓜部会(北部)	19	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
なし		果樹部会	7																									
だいこん		大根部会(北部)	9	●				●	●												●	●						●
トマト		トマト部会	23	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
きゅうり		胡瓜部会	13	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2. 消費者の意向調査

□対象等：金沢市民及び首都圏・関西圏・中京圏の居住者（各地域 413 人）に対し、インターネットによるアンケート調査を実施（令和 7 年 8 月に実施）

1) 普段購入する野菜について（上位 3 項目）

- ・「普段の野菜の購入先」は、すべての居住地において「スーパー」が最も多く、次いで、首都圏、関西圏では「青果店（八百屋）」「農産物直売所」、中京圏、金沢市では「農産物直売所」「青果店（八百屋）」の順に多くなっています。
- ・「野菜を購入する時に重要視する項目」は、首都圏、関西圏、中京圏では「鮮度（品質）」が最も多く、次いで「価格」「味」となっている一方で、金沢市では「価格」が最も多く、次いで「鮮度（品質）」「味」となっています。
- ・「野菜を食べたいと思う主な情報源」では、居住地による差は見られず、「店頭で商品を見た時」が最も多く、次いで「テレビ番組の特集」「チラシや広告」となっています。

2) 金沢ブランド農産物の認知度

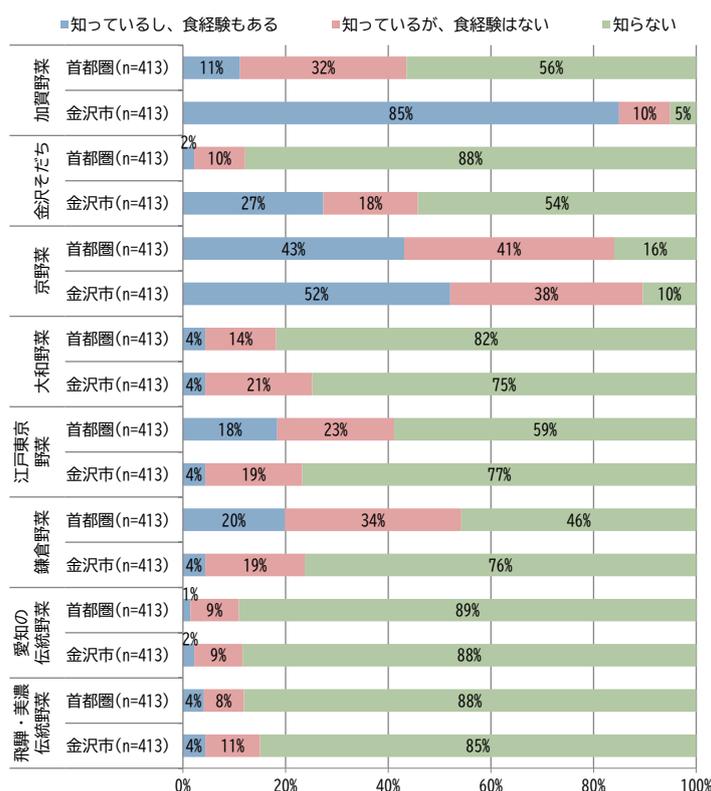
(1) 加賀野菜

- ・首都圏における「加賀野菜」の認知度は 40%程度と、京野菜、鎌倉野菜に次いで認知度が高くなっていますが、品目別の認知度（次頁）は、いずれも低くなっています。
- ・金沢市民は、大半が加賀野菜を認知していますが、食経験が低い品目（二塚からしな等）もみられます。

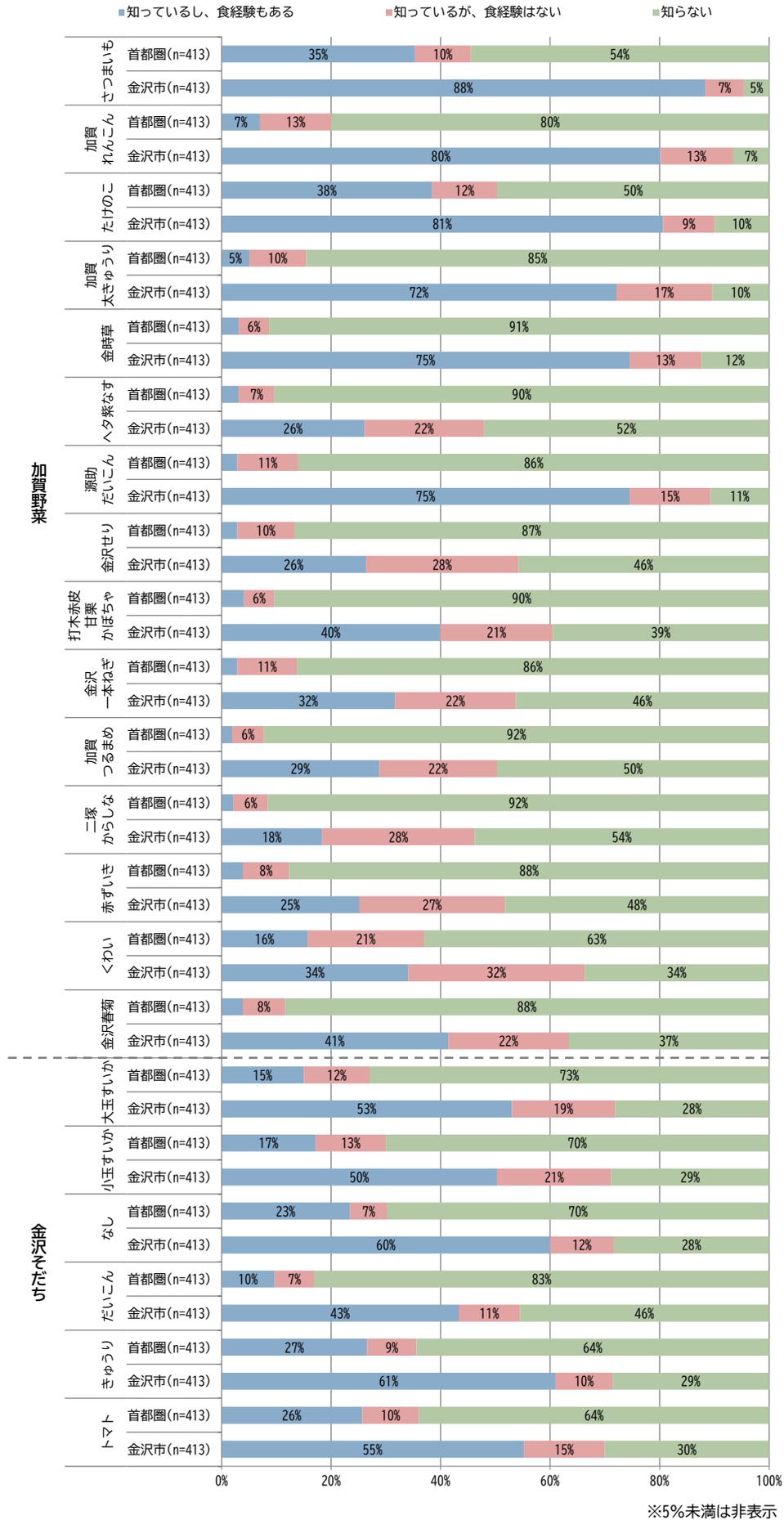
(2) 金沢そだち

- ・「金沢そだち」の認知度は、首都圏では 10%程度、金沢市は 50%程度と「加賀野菜」と比べると低く、品目別の認知度（次頁）も首都圏では低くなっています。

<全国のブランド農産物の認知度>



＜金沢ブランド農産物品目別認知度＞



資料3. 次期金沢産農産物ブランド戦略策定委員会

時期	内容
令和7年6月4日	第1回 次期金沢産農産物ブランド戦略策定委員会 (これまでの取組や金沢ブランド農産物の現状の確認等)
令和7年7月4日 ～8月7日	各種アンケート調査等の実施
令和7年10月2日	第2回 次期金沢産農産物ブランド戦略策定委員会 (施策体系や具体的な取組の提案・確認等)
令和7年11月7日	第3回 次期金沢産農産物ブランド戦略策定委員会 (書面開催) (骨子案の提示)
令和7年11月28日 ～12月27日	パブリックコメントの実施 (意見: 4件)
令和8年2月6日	第4回 次期金沢産農産物ブランド戦略策定委員会 (次期戦略のとりまとめ)

資料4. 次期金沢産農産物ブランド戦略策定委員会委員名簿

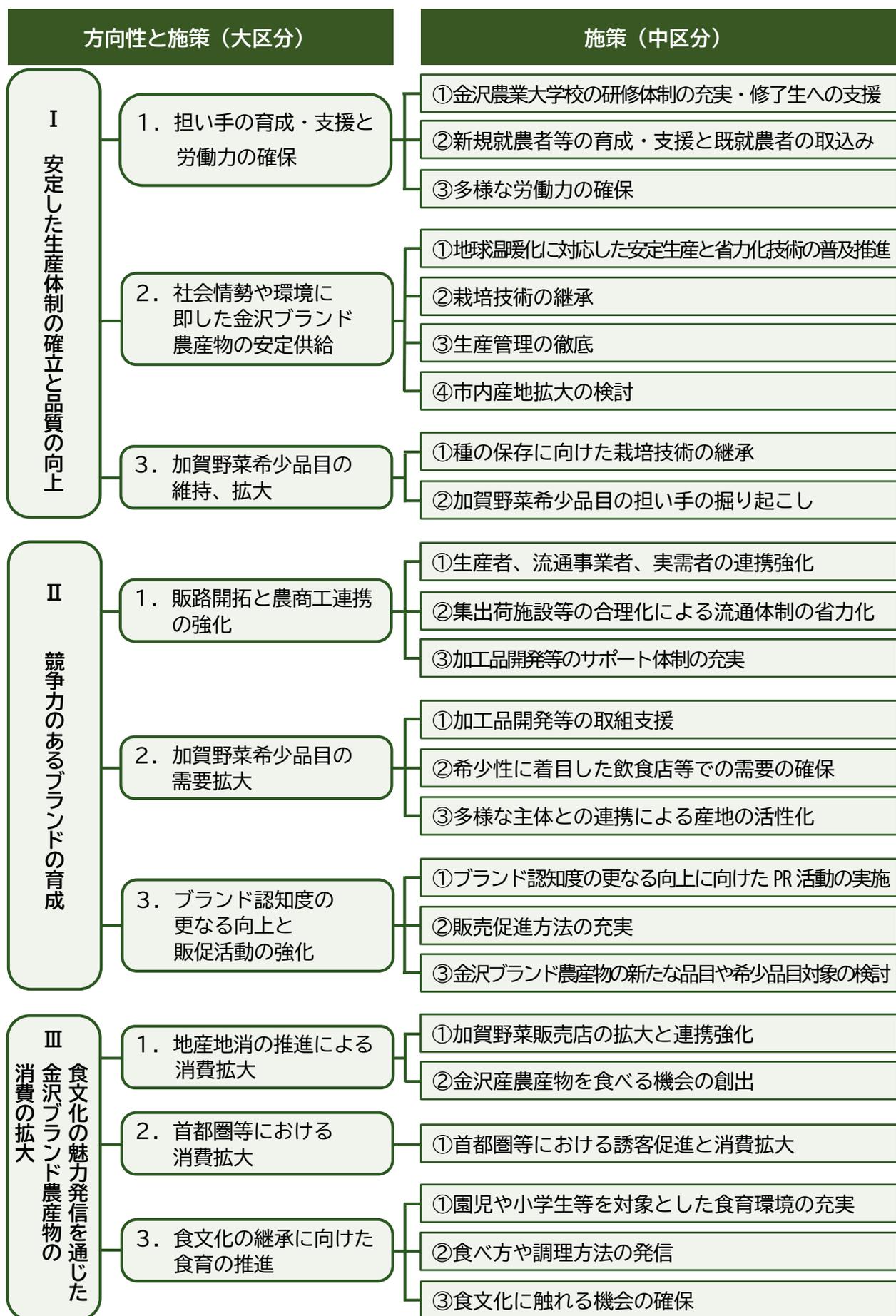
所属・役職		氏名
委員長	石川県立大学 生物資源環境学部 准教授	塚口 直史
委員	金沢市料理業組合 会長	浅田 久太
	金沢中央農業協同組合 営農経済部長	石川 浩洋
	金沢市農業協同組合 営農経済部長	井納 拓樹
	丸果石川中央青果株式会社 取締役 管理統括本部長	岡嶋 啓介
	全国農業協同組合連合会石川県本部 米穀園芸部長	坂野 靖
	金沢そだち生産者	太平 武士
	金沢市青果食品商業協同組合 理事長	東渡 孝
	加賀野菜希少品目生産者	橋本 将史
	加賀野菜生産者	藤村 幸司
	フードコーディネーター	山根 ひとみ

(五十音順: 敬称略)

資料5. 用語説明

	用語	説明
あ	一次加工	農産物を、素材の性質を大幅に変えたりほかの食材を加えたりすることなく、保存性を高めたり、商品等の製造時の原料として使いやすくすること
	海幸金沢	金沢港で水揚げされる水産物
か	加賀野菜	昭和20年以前から栽培され、現在も金沢で栽培されている野菜 品目：さつまいも、加賀れんこん、たけのこ、加賀太きゅうり、金時草、ヘタ紫なす、源助だいこん、金沢せり、打木赤皮甘栗かぼちゃ、金沢一本太ねぎ、加賀つるまめ、二塚からしな、赤ずいき、くわい、金沢春菊
	加賀野菜希少品目	加賀野菜に認定されている15品目のうち、生産量・生産者ともに減少し、存続が懸念されている品目（ヘタ紫なす、金沢せり、加賀つるまめ、二塚からしな、赤ずいき、くわい）
	加賀野菜大量品目	加賀野菜に認定されている15品目のうち、生産量がある程度確保されている品目（さつまいも、加賀れんこん、たけのこ、加賀太きゅうり、金時草、源助だいこん、打木赤皮甘栗かぼちゃ、金沢一本太ねぎ、金沢春菊）
	金沢そだち	金沢の風土を活かして生産された、優れた特徴や品質を有するなど、一定の条件を満たす野菜（加賀野菜は除く） 品目：すいか（小玉すいかを含む）、なし、だいこん、きゅうり、トマト
	金沢ブランド農産物	「加賀野菜」「金沢そだち」の総称
	環境保全型農業	農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和等に留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業
さ	実需者	生産者から仕入れた商品を消費者に提供している量販店や外食産業、食品加工業者等
	集落営農	集落等地縁的にまとまりのある一定の地域内の農家が農業生産を共同して行う営農活動
	スマート農業	ロボットやAI等の先端技術を使って、農業の作業効率化や品質向上を目指す取組
な	認定農業者	5年後の経営改善目標を記載した農業経営改善計画を立てて、市町村の認定を受けた農業者
	農地の集積	農地を所有し、又は借り入れること等により、利用する農地面積を拡大すること
	農福連携	障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組

資料6. 施策の体系図



個別施策の実施内容	KPI（重要業績評価指標） （現状→目標(R12)）
<ul style="list-style-type: none"> ・金沢農業大学における人材育成・かむらの見直し ・修了生等への就農支援・フォローアップの充実 	加賀野菜の農家戸数 (312→312人) 金沢そだちの農家戸数 (175→175人)
<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者への各種支援 ・既就農者が新たに加賀野菜を作付けする際の生産者組織への支援 等 	加賀野菜・金沢そだちの1戸あたり生産量 (46,634→51,297kg)
<ul style="list-style-type: none"> ・他産地・他産業との労働力の融通など、連携体制の構築 ・農福連携のほか、アティバシやボランティアの活用など、新たな労働力確保の検討 等 	加賀野菜希少品目の農家戸数 (22→24戸)
<ul style="list-style-type: none"> ・高温化対策技術の確立・普及 ・スマート農業機械等の実証や研修提供、研修会等の開催、導入支援 等 	加工品の開発支援数 (2→5件(5年通算)) 加賀野菜販売店登録制度の登録数 (51→87店舗)
<ul style="list-style-type: none"> ・「農の匠」による技術講習会の実施 ・技術の継承に向けた巡回指導等の実施 等 	加賀野菜希少品目のPR実施回数 (2→2回/年) 加賀野菜希少品目の生産量 (6,006→6,607kg) 加賀野菜希少品目の農家戸数【再掲】 (22→24戸)
<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業への理解促進等 ・安全安心な生産と農業経営改善のための農業生産工程管理(GAP)の普及・徹底 等 	認知度の低い加賀野菜9品目※の市民の認知度 (55→66%) 金沢そだちの市民の認知度 (45→93%)
<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者や集落営農など、多様な担い手への農地の集積と基盤整備等への支援 ・適地及び新たな作型の調査・検討 	加賀野菜大量品目の生産量 (3,804→4,184t) 加賀野菜希少品目の生産量【再掲】 (6,006→6,607kg) 金沢そだちの生産量 (10,641→11,705t) 加賀野菜販売店登録制度の登録数【再掲】 (51→87店舗) 市内での加賀野菜・金沢そだちのPR実施回数 (10→30回(5年通算))
<ul style="list-style-type: none"> ・加賀野菜希少品目を次世代に継承するため、金沢農業大学校等の取組を強化 ・技術の継承に向けた巡回指導等の実施 等 	首都圏等での加賀野菜のPR実施回数 (10→20回(5年通算))
<ul style="list-style-type: none"> ・個人で栽培している生産者を生産者組織へ加入促進する方法を検討 ・集落営農や大規模営農農家による転作作物としての加賀野菜希少品目の生産促進 等 	学校等での生産者交流会の実施回数 (36→39回/年) レシピ動画の平均再生回数 (524→1,000回)
<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の市場やスーパー等での消費宣伝の実施 ・金沢「フード」農産物の消費拡大に向けた加賀野菜販売店登録制度の活用 等 	
<ul style="list-style-type: none"> ・流通の省力化に向けた集出荷施設等の整備支援 ・貯蔵性を高める設備の充実 	
<ul style="list-style-type: none"> ・コデイターによる入口から出口までの支援 ・各種制度を活用した施設整備等への支援 等 	
<ul style="list-style-type: none"> ・長期間の保存を可能とする一次加工を含む加工品開発等の支援 	
<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー等での加賀野菜の伝統的な食べ方による惣菜等の試食販売の促進 ・加賀野菜希少品目を用いた市内飲食店等でのメニューの開発・定番化の促進 	
<ul style="list-style-type: none"> ・加賀野菜希少品目による特産品づくりの推進 ・大学等と連携した「レシピ」開発・動画発信等の産地の活性化とPR活動の推進 	
<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏等の飲食店やインカドと連携した、料理を通じたPRの実施 ・PR映像や加賀野菜メニューカードを活用した市内内外でのPR活動の実施 等 	
<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な販売促進方法の企画と実施 ・大手民間事業者とのタイアップ企画等によるPRの検討と実施 等 	
<ul style="list-style-type: none"> ・金沢そだちの新たな品目の調査と検討 ・加賀野菜希少品目の対象の見直し検討 等 	
<ul style="list-style-type: none"> ・加賀野菜販売店の登録拡大に向けた伝統的な調理等を用いた取組の充実 ・加賀野菜の品目ごとの生産量に合わせた加賀野菜販売店でのキャンペーンの実施 等 	
<ul style="list-style-type: none"> ・地元水産物（海幸金沢等）と連携した、飲食店等での活用促進に向けた取組 ・生産者の顔が見える金沢産農産物の発信 	
<ul style="list-style-type: none"> ・友好交流都市等におけるPRの実施 ・ふるさと納税の活用促進 等 	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食を通じた食べる機会の創出や生産者との交流 ・学校授業における地産地消に関する副読本の活用 等 	
<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー等やSNS、リアルを活用した伝統料理や家庭料理の発信 ・金沢「フード」農産物を使用した市民向け料理教室の開催や支援 等 	
<ul style="list-style-type: none"> ・金沢の食文化を背景としたイベントの開催 ・金沢湯涌みどりの里等の施設を活用した、農と食を楽しむ体験型イベントの実施 	

※くわい、金沢春菊、打木赤皮甘栗かぼちゃ、金沢せり、金沢一本ねぎ、赤ずいき、加賀つるまめ、ハタ紫なす、二塚からしな

金沢産農産物ブランド戦略 2030

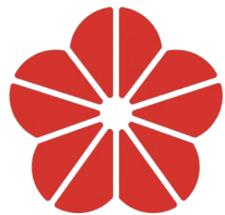
発 行 令和 8（2026）年 2 月

発行者 金沢市農林水産局農業水産振興課

〒920-8577 金沢市柿木畠 1 番 1 号（金沢市役所第二本庁舎）

TEL 076-220-2213 FAX 076-222-7291

E-mail nourin_s@city.kanazawa.lg.jp



加賀野菜

